

編集後記

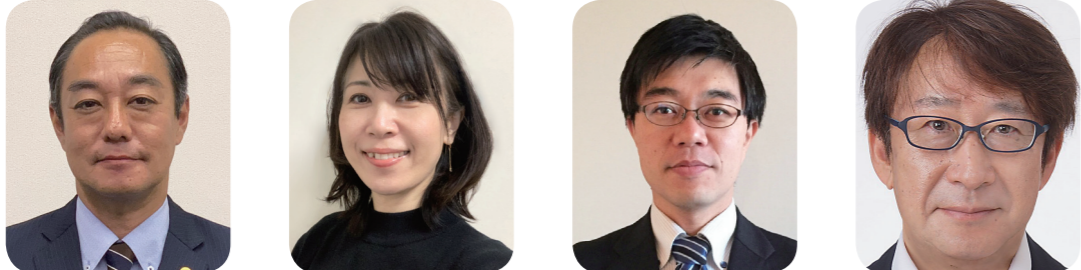
今回のアンフィニは千葉県協会創立65周年記念号として企画・制作しました。

65周年記念式典でビデオメッセージを頂戴した熊谷俊人知事に今回の記念号の目玉にと対談を依頼したところ、分刻みのスケジュールの中時間を空けていただき、11月15日に石井会長と対談をしていただきました。私も同道いたしました。気さくで本当に千葉県のことを愛しているのだと感じ入りました。対談の内容は本誌や千葉県協会YouTube公式チャンネル動画などでご覧ください。私たち中小企業診断士に向けた熊谷知事の熱い思いを1日でも早く皆さんにお届けしたいと、記念号を通常の発刊時期より3か月前倒して制作しました。

アンフィニの発刊目的は、①会員に千葉県協会の活動や会員の顔を見える化するため、②支援機関の皆さまに千葉県協会の活動を知っていただくため、の2つがあります。

ぜひこの記念号をきっかけに私たち千葉県協会のことを知っていただければ幸いです。
(広報部長(アンフィニ編集委員長) 桂川 慎一)

アンフィニ編集委員 (順不同、敬称略)



桂川 慎一 (編集委員長) 相馬 麻須美 喜多 康人 西川 靖志



加瀬 雄大 末富 勉 藤井 啓子 平山 邦子

広報部理事 (順不同、敬称略)



桂川 慎一 (広報部長) 柏村 斉 鈴木 園子

CONTENTS

巻頭言 会長 石井 孝昌
創立65周年を迎えて 2

祝辞
一般社団法人千葉県商工会議所連合会 会長 佐久間 英利 6
千葉県商工会連合会 会長 寒部 茂樹 7
千葉県中小企業団体中央会 会長 飯塚 真太郎 8
一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会会長 会長 松枝 憲司 9

特集① 熊谷俊人千葉県知事・石井会長対談
新しい千葉の時代を切り開く～経済の活性化と中小企業の振興～ 10

特集② 協会設立65周年記念対談
コロナ禍を経て大きく変わった事業環境と組織体制、次の5年に向けて 18

特集③ 今井相談役(前会長)が経済産業大臣賞受賞！激動の会長時代を振り返る！ 24
創立65周年講演会・祝賀会開催 28
新任専務理事・新任理事紹介 30
新任理事座談会 32
千葉県中小企業診断士協会を知る 34
2024年度 研修部発 3つの新企画
まずはやってみよう！「診断士の歩き方」・「企業内診断士勉強会」・「リアルサロン」 38
明日のスターを目指せ！2024セミナー講師発掘プレゼン大会 42
新任編集委員、新任イベントレポーター、ホームページ編集委員のご紹介 46



■「Infini アンフィニ」は、一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会が発行する機関誌です。
■本誌に関するご意見、お問い合わせ等は、一般社団法人 千葉県中小企業診断士協会までご連絡ください。本誌記載の記事内容、情報等の無断転載を禁止します。

「創立65周年を迎えて」

会長 石井 孝昌

日頃より協会運営にご協力いただきありがとうございます。千葉県中小企業診断士協会会長の石井孝昌です。アンフィニ発刊にあたり、2024年度を振り返りつつ、今後の取り組みについてご説明させていただきます。



定時社員総会にて

感謝の創立65周年

1959年に社団法人中小企業診断士協会千葉県支部が設立され、2012年には一般社団法人千葉県中小企業診断士協会となり、2024年に当協会は65周年を迎えました。中小企業の皆様、連携先機関の皆様、当協会の歴史を紡い

できていただいた先輩方、そして共に切磋琢磨している現会員の皆様、我々が活動を継続できたのは皆様のお力添えのおかげであり、この場をお借りして心から御礼申し上げます。

近年の動向としては、一般社団法人化した2012年には約150名であった会員数は現在520名を超える規模となりました。研修・祭・広報など各種委員会の活動が活発化し、会員向けイベントの充実が図られてきました。また、商工団体や金融機関、保証協会の皆様との連携を深め、受託事業も拡大してきました。組織が拡大すること自体が目的ではありませんが、どれだけ地域に貢献できたか、会員が楽しく協会活動をしているかということを考えますと、大いに成果があったと言えるのではないかと思います。今井前会長の時代から体制整備が進み、会員がそれぞれの立場で活躍する土壌ができてきました。我々を取り巻く環境は変化を続けていますから、今後も環境変化に対応しつつ、協会活動の充実を図ってまいります。

日本中小企業診断士協会連合会は70周年

千葉県協会の上部団体である一般社団法人中小企業診断士協会は本年度70周年を迎え、2024年10月1日から一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会に名称を変更しました。略称は日診連、英文名：Japan Federation of Certified Management Consultants' Associations、英文略称：JF-CMCAとなります。

千葉県協会ではHPやパンフレット等で本部の旧名称の英文略称を取り入れた「C-SMECA」というロゴを使用していたのですが、本部の名称変更に伴い新しいロゴにする予定です。会員にはすでにご連絡している通り、ロゴは会員から公募させていただいております。どのようなロゴになるのか大変楽しみです。

定款変更と理事増員

2024年4月には臨時総会を開催し、理事の定数を25名から35名に増やすための定款変更を決議いたしました。6月の定時総会においては、新たに9名の理事を選任し、理事の人数は25名から29名になりました。理事を増員



第2回理事会にて

した目的は「①会員数が増加する中、多くの人が協会運営に関与することで協会の活性化を図る」「②細やかな企画・運営を実現する」「③連携機関との関係強化を図る」です。千葉県協会として定款変更は初めての取り組みです。理事会での議論においても賛否両論ありましたし、なぜ?と感じる会員もいらっしゃったと思います。できるだけ多くの会員からご理解をいただけるように、動画や文書による説明、説明会の実施などを行いました。おかげさまで無事に定款変更をすることができました。千葉県協会の活動がより充実したものになるように、会員みんなで協力しながら新たな取り組みにもチャレンジしていきたいと思います。

千葉県協会の現状と新たな取り組み

定款変更在先立ち、会員向けのアンケート調査を実施いたしました。アンケート結果は前号のアンフィニに掲載しておりますが、私自身も気が付いていなかったことが多々あり、また多くのご意見もいただき、大変良い機会だったと思います。アンケート結果も踏まえて、2024年度に新しい取り組みを実施・準備しました。

【会員が活動しやすい環境づくり】

2023年11月に事務所を移転して、新たに40人規模の会議室を設置しました。研究会活動やイベント、委員会の打合せ等で少しずつ利用されるようになってきています。予定が入っていない時間帯は千葉県協会の会員はコワーキングスペースとしてご利用いただけるようになりましたので、kintoneで会議室の予定を確認していただき、ぜひ積極的にご利用ください。また、バーチャルオフィスサービスの提供についても近々ご案内させていただく予定です。名刺に自宅住所を記載することに抵抗がある方はぜひご検討ください。リーズナブルな料金設定にする予定です。



定款変更説明会にて

【企業内中小企業診断士へのサポート充実】

新たな取り組みとして企業内中小企業診断士勉強会を開催いたしました。私も見学させていただきましたが、活気あるディスカッションが行われ、充実したイベントとなりました。

【会員同士の交流促進】

こちらも新たな取り組みとして、研究会発表会を開催いたしました。研究会には専門性の高い人材が集まっており、研究内容を発表し合うことで大いに学びがありました。診断士活動を充実したものにするための「診断士の歩き方」や、会員間相互の固定観念にとられない「ゆるい」交流を進めることを目的にリアルサロンが開催されました。入会からしばらく経過した方々が集まって情報交換する入会5年目の会も開催されました。

【支援機関とのコミュニケーション強化】

理事の増員に伴い、商工団体、金融機関、保証協会などの支援機関とのコミュニケーションを強化してまいりました。千葉県内には11の金融機関があるのですが、2024年度には11件目の協定を締結し、千葉県内すべての金融機関と連携協定またはそれに類する協定を締結することができました。

今後の方向性

これまでに引き続き「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする」を千葉県協会のミッションとして掲げ、「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する」取り組みを強化してまいります。今回のアンフィニでは65周年を記念して、熊

谷知事と私の対談を掲載させていただきました。これも一つのきっかけにしながら、行政機関への協力・連携・提案も強化して参りたいと思います。また、中小企業への支援策として、より密度の濃い、継続的な支援をするための具体策を検討します。

会員の皆様には、千葉県協会を活用し、ご参加いただき、連携する機関の皆様とも連携し、みんなで地域を盛り上げていければと思っております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



新入会員研修会後の懇親会にて



65周年記念祝辞

一般社団法人千葉県商工会議所連合会
会長 佐久間 英利

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立65周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和34年の社団法人中小企業診断協会千葉県支部として創設以来、経営支援の専門家集団として、不断の研鑽を重ね、長きにわたって、県内の中小企業・小規模事業者を支えてこられました。また、近年は500名を超える会員数に加え、若手会員の理事への登用や会員向けの研修事業の強化など、体制強化にも積極的に取り組まれておられます。これもひとえに石井会長をはじめとした役員並びに会員、職員の皆様方が一丸となってご尽力されてきた賜物であると、改めて敬意を表する次第でございます。

現在、我が国の経済情勢は全体的に回復基調にあるものの、中小企業・小規模事業者を取り巻く環境は、エネルギーや原材料価格などの高騰に加え、慢性的な人手不足も重なり依然として厳しい状況にあります。加えて、労働生産性を高めるデジタル化への対応や、その先のDX（デジタル・トランスフォーメーション）への取組も必須であります。

このような課題が山積する時にこそ、貴協会のような経営支援の専門化集団のお力が必要です。貴協会には、「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする」というミッションのもと、中小企業・小規模事業者の良き相談相手として、きめ細かな経営支援に、より一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

また、併せて行政機関、金融機関、商工団体をはじめとした関係機関との連携をより一層強固にし、中小企業・小規模事業者の成長発展はもとより、地域経済の発展にもご尽力いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

結びに、貴協会の益々のご発展と、会長をはじめ役員、会員、職員の皆様のご繁栄を心よりお祈り申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



65周年記念祝辞

千葉県商工会連合会
会長 寒郡 茂樹

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立65周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協会は、昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉支部として発足されて以来、長きにわたり、千葉県内の中小企業・小規模事業者に対し、専門的な知見に基づいた実効性のある経営支援を実施されております。

これもひとえに、歴代会長はじめ役員並びに会員の皆様のご努力の賜物であると、改めて深甚なる敬意を表します。

我が国の経済は緩やかな回復基調にあるものの、県内企業の99.8%を占める中小企業・小規模事業者においては、深刻化する人手不足や高齢化等の社会構造の変化に加え、エネルギー価格・物価の高騰や最低賃金の引上げ等の経営環境の変化など、対応すべき課題は山積しております。

そのような状況下において、今後も、地域の中小企業・小規模事業者が持続的な発展を遂げていくためには、生産性向上やDX・デジタル化等に積極果敢に取り組んでいく必要があります。

私ども商工会においても、日々職員の資質向上に努めておりますが、近年では「各種施策の情報提供型」から「事業計画策定支援などのコンサルティング型」へと支援内容が大幅にシフトし、それぞれの事業者の実情に応じた、よりきめ細やかな支援が求められております。

貴協会におかれては、これまでも専門家派遣事業などを通じ、多大なるご協力をいただいておりますが、より高度化・複雑化する支援ニーズに対応するため、専門家集団である貴協会との連携強化が必要不可欠であると認識しております。引き続き、地域経済・社会を下支えし、地域コミュニティの担い手である中小企業・小規模事業者のさらなる発展のため、一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、貴協会の今後ますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



65周年記念祝辞

千葉県中小企業団体中央会
会長 飯塚 真太郎

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立65周年という記念すべき節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和34年に社団法人中小企業診断協会千葉県支部として発足し、平成24年には一般社団法人化され、今日まで長きにわたり中小企業の経営の診断・助言等を通じて、県内中小企業及び組合等の経営の改善に貢献をされてきました。これもひとえに、歴代支部長及び会長をはじめとした協会の役員並びに会員の皆様の熱意とたゆまぬ努力の賜物であり、その優れた組織運営に対し、改めて深く敬意を表するものであります。

また、平成30年3月末に貴協会が事務所を独立されるまで、30年以上に亘って本会と同じ事務所内で共に業務を行ってきたというご縁から、本会の各種事業の専門家や講習会等の講師、加えて本会が地域事務局となっている国の「ものづくり補助金事業」や「省力化投資補助金」の実施においても、多くの会員診断士のご協力を頂いていること、心より感謝を申し上げます。

さて、県内の中小企業を取り巻く環境は、人手不足や人件費の増加、上昇する物価の価格転嫁難に加えて働き方改革やDX化、事業承継問題など多様で複雑な課題を抱え、これらは早急に取組む必要がございます。

このような状況の中、会員診断士の皆様には企業の成長戦略策定やその実行のためのアドバイスを始め、中小企業と行政等と繋ぐパイプ役、また専門的知識を活用しての中小企業施策の適切な活用支援等幅広い活動が求められているため、貴協会では、会員相互の能力の研鑽を図るとともに研修会や情報提供事業に加えて、会員交流なども積極的に取組まれています。今後は、約500会員のネットワークをより強固にし、会員が持つ専門的な知識・経験の蓄積を活かしながら中小企業支援を行うことによって、県内経済の活性化に繋がることを御期待申し上げます。

結びに、貴協会がこの記念すべき創立65周年を契機に、より一層の飛躍を遂げられますことを心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉と致します。



65周年記念祝辞

一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会
会長 松枝 憲司

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会が創立65周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げますとともに、このたび記念誌を発刊されますことは、誠に意義深く、お慶び申し上げます。

貴協会は昭和34年の創立以来、「中小企業の可能性を実現する経営支援の専門家集団」として活発な活動を続け、千葉県の中小企業の振興と発展に多大な貢献をされてきました。特に近年では、経営改善計画の策定において大きな成果を挙げておられると伺っております。また、数多くの研究会が地道に活動を続けておられ、その積極的な取り組みが実を結んでいることに心より敬意を表します。さらに、創立60周年から65周年にかけて、会員数は300名から500名を超えるまでに増加しており、石井会長をはじめ、現役および歴代の役員・会員の皆様のご尽力に対しまして、深く敬意を表したいと存じます。

この10月には、連合会も創立70周年を迎え、これを機に名称を、中小企業診断協会から日本中小企業診断士協会連合会（略称：日診連）へ変更いたしました。名称変更の目的は、本会の役割と使命をより明確にし、中小企業診断士という専門家の協会の連合会であることを、内外の皆様にはわかりやすく伝えることにあります。

日本経済の活性化において、中小企業診断士の果たす役割が極めて大きいものであることは、申すまでもありません。この期待にこたえてゆくためには、中小企業診断士一人ひとりが一層の自己研鑽を通じて診断実務の品質を高めることが肝要であり、500名を超える千葉県協会の中小企業診断士の皆様の活躍が大いに期待される所でございます。

結びに、65周年という節目を契機として、千葉県協会が支援機関や金融機関との連携を一層強めて更なる発展を遂げられること、ならびに会員各位のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、65周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

熊谷俊人千葉県知事×石井会長 対談

新しい千葉の時代を切り開く ～経済の活性化と中小企業の振興～

千葉県中小企業診断士協会は2024年（令和6年）に創立65周年を迎えました。

機関誌アンフィニでは、65周年を記念して、熊谷俊人・千葉県知事と当協会の石井孝昌会長が対談し、成田空港の「第2の開港」が近づくなかで千葉県経済のさらなる活性化、スタートアップ支援と中小企業の成長策、これからの中小企業診断士に求められる役割について話を伺いました。



石井会長：熊谷知事、千葉県中小企業診断士協会の65周年記念の対談をお受けいただきまして、ありがとうございます。

熊谷知事：我々千葉県にとって、中小企業の支援などを進めていく上で、皆さんにはアドバイスをいただき、いろいろな形でサポートをしていただいております。65周年という節目に、こうして石井さんと対談ができるというのは大変ありがたいと思っています。

石井：簡単に千葉県協会の紹介をさせていただきます。協会には中小企業診断士が現在、520人ぐ

らいおります。そして千葉県内の中小企業の「行き先を照らし」「伴走し」「元気にする」をミッションに掲げ、各種経営支援サービスを提供しています。

特徴は経済団体とのネットワークを活かしていることです。例えば商工団体との連携では、昨年度は延べ2000日の窓口相談をやらせていただきました。

熊谷：ありがとうございます。

石井：そして県内の金融機関とのネットワークがありまして、県内の11金融機関全てと連携協定などを結んでおり、県の中小企業活性化協議会の経営改善計画作成支援事業の件数では、全国的にトップクラスです。

そうした面では千葉県の診断士協会は全国でもトップランナーで走っているつもりですが、一方で行政との直接的なコミュニケーションでは私はやや不足している、と反省しております。これを機会にぜひ連携を強化させていただきたい、と思っています。

熊谷：ぜひ、お願いいたします。最前線をご存知でしょうから。

石井：それでは、まず千葉県経済の活性化と中小企業の経営支援をお聞きします。

熊谷知事は経済の活性化、ここに非常に力を入れて取り組まれています。今までの政策の実績や、経済活性化に対する知事のお考えをお聞かせいただきたい。

熊谷：我々千葉県の一番の仕事の一つは商工労働政策だと思うんです。

特に経済産業の面では、まず我々がやらなければいけないのは、千葉県の経済の「パイ」を増やす。そしてそのなかで循環していく投資額を増やしていくということが大事だと思っています。

経済の「パイ」もしくは「循環」を大きくすれば、最終的には中小企業の方々も含めて受注機会の確保にもつながっていきます。

そのなかで、今、千葉県は非常に重要なタイミング、画期的なタイミングを迎えていると思っています。

その一つが、まず成田空港です。

成田空港は2029年に第3滑走路の新設を含めて空港敷地面積が2倍になる。

我々は「第2の開港」と言っておりますが、そ



れぐらいの重要なタイミングです。投資額もそうですが、経済的なインパクトも含めて非常に大きな変化が2029年に向かって進んでいます。

単に空港が2倍になるだけでなく、雇用拡大もそうですし、経済的な効果も大きいです。我々は、さらにこれを最大限に活用していくためには成田空港周辺の産業拠点の形成が重要だと考えています。

例えば韓国のインチョン空港ですとか、シンガポールのチャンギ空港の周辺はもう国家的に開発され、国際的なトレードゾーンになっているわけです。

しかし、成田空港周辺では残念ながら、そこまでしっかりとした戦略を持って整備されてきているわけではないということがあります。

成田空港は既に貿易総額で日本最大です。国際航空貨物のアジアや世界のサプライチェーンにおいて中核的な位置を占めている空港になりますので、その周辺にしっかりとした、国際的な物流拠点であったり、あるいは製造拠点、研究機関などを立地させていくことが十分にできるだろうと思っています。

しかしながら、これまでは農地が多くて開発しづらかった点について、千葉県が国と折衝をして、「空港周辺の土地利用規制の弾力化を実現し、例外的に農地を含む土地に物流施設を整備することができる」という成果を挙げました。すでに成田市と多古町で2つの国際的な物流プロジェクトが発表され、動いていますので、まさにこれから様変わりをしていきます。

我々はさらに総理にも要望して、総理からも国家プロジェクトとして国際物流拠点形成を進めて



いくというお話や、特区の千葉県全体での活用などもお話いただいていますので、特区・規制緩和も含めてやっていきたいと思っています。

最後に、もう一つが道路。これも非常に重要で、いよいよ圏央道の全線開通が令和8年度、間近に迫ってきています。

圏央道は千葉県の骨格、背骨に値する場所になりますので、全線開通は非常に大きなインパクトを持っています。空の部分と陸の部分の大きな拠点性を高めるタイミングが近々やってくる。そこをめがけて今、県としては、企業誘致もそうですが、様々な都市開発、産業用地整備を進めているところです。

石井：まさにこの空と陸の大きな動線を今作られているというところで、ちょうど企業誘致というお話も出たんですが、誘致企業の数を見比べると近年実績を上げています。企業誘致の取り組み、考え方はいかがですか。

熊谷：企業立地の件数は過去最高を記録して、そ

の後も高止まりしています。

千葉県はこの重要なタイミングに県への投資を呼び込もうということで、私自身、トップセールスをやっています。

この前も東京で行いましたし、企業誘致には全力を挙げています。

我々が足しげく企業を訪問し、回数を重ねることで情報を収集して、そしてアプローチしていく。それから、企業立地の補助金ですね。

これも柔軟に毎年必要な部分の見直しをしていく、スピーディな対応を行っています。例えば、賃借型を補助の対象にしたり、工場立地についても対象範囲を広げたりということをやってきています。

すでにGoogleの日本で最初のデータセンターを誘致しておりますし、柏の葉地域ではSMCという世界的な空気圧機器のトップメーカーが、1000億円以上の投資を決めています。幕張地域ではメルセデス・ベンツの日本法人が東京から移ってきています。企業誘致に関しては、全力で行ってきて、今、確実に千葉県への投資が数多く行われています。

石井：そういったことが、どんどん経済的な波及効果を生んでいくというところが、今後まさに期待できる部分だと思います。

先ほど成田空港ということをいわれましたが、千葉県内は観光資源も豊かです。観光の振興も熊谷知事が力を入れていらっしゃると思いますが、観光分野の政策の現状、今後の取り組みなどいかがでしょうか。

熊谷：観光に関しては非常に大きなポテンシャルを持っていると思っています。県内各地域隔々まで雇用を生み出し、経済波及効果を高めていくためには、いかに東京から、あるいは成田空港から、県内各地域に足を運んでいただくかが重要です。そのためにも、我々が今進めているのは、例えば、今年の9月、成田空港の中に県の観光情報窓口を設置し、そこから千葉県内を周遊していくというようなモデルツアーも今、始めております。成田空港の価値を最大限に高めていき、(多くの方々に)各地域を旅していただきたいと思っています。

それから、今観光産業では人手不足が深刻になってきています。

石井：そうですね。

熊谷：観光・宿泊業界の雇用の確保、そのための事業者と求職者のマッチング、そうした部分に我々は力を入れてきています。

また、観光分野において、データをもっとちゃんと活用していこうとしています。観光系のデータをそれぞれの事業者がバラバラに持って戦うのではなく、全体的なプラットフォームを作り、そのデータをいかにマーケティングに使っていただくか、そういうことも今、模索しています。

そして、観光分野において、県としてインパクトのある政策をもっとやっていきたいと思っています。そのために財源の手当が必要ですので、現在、丁寧に事業者にはアヒンクをしながら宿泊税の検討を進めております。安定的な財源のもとに県内それぞれの魅力を活かした大胆な観光施策、

人手確保、さらに観光・宿泊業界の投資の支援を進めていきたいと思っています。

石井：私は千葉県生まれなので、千葉県が大好きで、県内にはいいところ(観光地)がたくさんあると思うんですが、残念ながら、各地それぞれ単体で見ると、ややブランド力としてはそこまで強くはないのかな、という問題認識があります。知事が今おっしゃったようにデータの活用ですとか、また周遊型というような提案もされている、こうした連携を図っていくことがとても大事ではないかなと思っています。

熊谷：おっしゃる通りですね。

我々とする、やはり県は広域行政体ですから、どちらかという全体をマネジメントする役割を担っています。千葉県の観光地は市町村ごと、つまり小さい単位で数多くあるので、そこを県がどのように間に入っていく、全体を最適化していかるか、ということなのだと思います。



石井：まさに県でしかできないところですね。

お話をミクロ経済、中小企業支援ということに進めますが、今、中小企業の経営環境が大きく変わっている、経営環境の変化を受けやすいという中小企業の特徴がありますが、県では今までも様々な取り組みを進めていて、その現状、今後の方向性など伺えますでしょうか。

熊谷：中小企業の方々は、物価の高騰、エネルギー価格の高騰の影響を非常に大きく受けていますし、これをしっかり価格等に転嫁できているかという問題、それから人手不足の問題があります。

千葉県はそこをしっかりと伴走型で支援をしていく。我々の大きなテーマは、まさに、中小企業の皆さまのそれぞれの個々の事情に応じた伴走型の支援を行っていくことが大きなポイントになります。

そういう環境で、先ほど申し上げた状況を克服していくためには、中小企業の皆さまが、生産性を向上していくことが大事だと思います。

これにはDX（デジタル化による企業の変革）



を活用していくことが大事だろうと考えています。中小企業の皆さまが生産性を上げていくためには、当然投資が必要になってきますので、この設備投資などに対して県単独の補助金、44億円計上して、使い勝手がいいので非常に多くの中小企業に使っていただいています。できる限り前向きな設備投資を促していく、というのがまず一つの考え方はです。

また、DXに関するさまざまな補助金が国にも、県もありますが、大事だと分かっているけど、何から手をつけていいのかわからないという方も多いので、中小企業診断士の皆さまにもいろいろな形でサポートいただいています。千葉県はDX支援を、相談されなくても行って、ニーズを掘り起こして専門機関とのマッチングにつなげる、全国的にも珍しいプッシュ型支援もやってきています。

価格転嫁に関しても、県として公労使会議などを通して大企業などにもしっかりと価格転嫁を認めてほしいとアプローチしています。粘り強く、全ての企業が価格転嫁できるように後押ししていきたいと思っています。

石井：もう一段階の価格転嫁がやはり必要ですし、中小企業も欲しいと思うんですね。（デフレから）インフレになり、燃料高、人件費高で、夏ぐらいまでは割と価格転嫁が出来ていた会社も多かったと思うんですが、夏以降、ちょっと踊り場に入ってしまったのかな、という懸念を私は感じています。熊谷知事が今、おっしゃいましたが、さらにもう一押し「追加で価格転嫁を促していく」という心強い言葉をいただきました。

熊谷：この前の九都県市首脳会議でも、九都県市が一丸となって価格転嫁を応援し、そして首都圏全体の大手企業などに呼びかけをしていくということを確認しました。東京に本社があるところを含めて大きなグループ全体となると、千葉県だけで、あるいは埼玉県だけでやってもなかなか効果を上げられません。我々としてはこれからも強く推していきたいと思っています。

石井：心強いお言葉、ありがとうございます。

県の設備投資の補助金ですが、中小企業の経営者の方々とお話をすると、あれはインパクトがあった、非常に良かったと言われています。来年度に向けてはどうなるのでしょうか。今後の設備投資の補助金の構想なども、我々の関心事でもあり、お話しできる範囲でお聞きしたいのですが。

熊谷：これはどれぐらい同じ規模までいけるか、なかなか難しいところではありますが、現場の方々から、本当にこれは使いやすかったというお声をいただいておりますので、どのような形で引き続き設備投資を促すような支援ができるかということ、まさに今、来年度予算を編成する過程で議論をしているところです。多くの中小企業の方々から投資の呼び水になったのは間違いない、という声を、我々もよく伺っております。

石井：そして起業、スタートアップの支援です。かなり力を入れているという話を伺っておりまして、現在の取り組みですとか、今後の展望などもぜひお聞きしたい。



熊谷：もちろん（現在の）中小企業も含めた支援は重要ですが、新しく入ってきたり、成長していくベンチャー、もしくはスタートアップを支援していくことは県として、極めて大事だと思っています。

そういう意味では、最初のベンチャーの段階からの、例えば経営的なサポートや投資家等とのマッチングなどを我々としては支援をしております。起業の考えをしっかりと発表する場についても、今かなり、増やしてきており、全体予算ですと15億円までスタートアップ関連予算を増やしています。

今年度も、補正予算を組みまして、私もドイツにも行って、スタートアップ支援の施設を見ました。もちろん補助金なども必要ですが、一方で「生態系」ですよ、スタートアップをする方、ベンチャー企業を立ち上げる経営者は、やはりさまざまな悩みがある。その悩み事に対して、先輩に気軽に聞くことができるということに価値がありますので、そういうコミュニティをどのように形成をして、お互い支え合うか。ある程度ステージを上げた元ベンチャー企業の方が今のベンチャーを



支援していくような、「生態系」、コミュニティを作っていくことが大事だと思っています。

そのコミュニティを形成していくような予算も今年度の補正予算でタイムリーに計上させていただきました。

そして教育とも連携をして、アントレプレナーシップ教育、いわゆる起業するというマインドを子供の頃から持っていただくことが大事だと思っていますので、その辺りも我々は今、かなり裾野を広げてやっています。

石井：起業（支援）やベンチャー企業を育成する様々な取り組みがあるなかで、熊谷知事は「生態系」とおっしゃったんですけども、これをネットワークとして作っていく、そのソフトの部分に投資されている、私は素晴らしいと思っています。参加されている方からお話を聞きますと、「集まり」に入っていくとモチベーションが上がるんだ、とおっしゃっている方も結構いらっしゃる。素晴らしい取り組みだなと思います。

初めにお話がありましたけども、千葉県には「動線」があります。

成田空港がありますし、そういった意味で充実している部分もあります。あとは学校、大学です

よね。研究機関で言えば木更津や柏に（集積）ありますから、そういったところとの連携も作られていて、今後に期待が持てるのかな、と思います。

熊谷：我々千葉県のメリットは理工系の大学や高等教育機関が非常に多い。千葉大学や柏の葉、そして木更津のかずさ（かずさDNA研究所）など、研究機関がしっかりありますので、ここからいかに中小企業、スタートアップも含めて波及効果をもたらしていくのか。ここは我々の財産です。

石井：今後羽ばたくスタートアップの企業が出てくると楽しいなと思います。

熊谷：県の産業振興センターでスタートアップ支援であったり、中小企業を支援する様々な取組を行っていますが、その中で伴走型支援で中小企業診断士の方がとても重要な役割を果たしていただいております。「我々の政策を実行していくなかには中小企業診断士あり」だと思っています。

石井：ありがとうございます。

最近、（千葉県中小企業診断士協会として）金融機関ですとか、保証協会など含めてですけど、（新



たな）連携が始まっています。スタートアップの支援で、金融の面から何かできないかということで、今ちょっと模索中です。（県とも）大きな取り組みの一つになれば、と思っております。

熊谷：ぜひ、ぜひ。起業率が高まってくれば、県全体で経済の活性化をしていきますので、その分野は県として力を入れていきたい。

私は東京も含め全国的なベンチャーの方々とお話をしますが、「熊谷さん、補助金も大事なんだけどもそれ以上に大事なのは、まずは起業してみよう、と思えるような土壌を、県や市が、地域が、作れるかどうかですよ」と必ず言われます。

石井：非常に示唆に富んだお話をお聞きました。熊谷知事から、中小企業診断士に期待すること、そして千葉県の中小企業診断士へのメッセージをいただけますか。

熊谷：千葉県の中小企業の支援政策や、スタートアップ支援をやっていく上で、中小企業診断士なくしては、裾野は広がらない状況だと思っています。

今、企業が抱える課題は本当に複雑化してきて

おりますので、なかなか企業の中のノウハウだけでは解決できないことが以前に比べたら増えてきていると思います。そういった意味では、外部とのネットワークを持ち、必要な機関や必要なネットワークにつなげることができる、中小企業診断士の存在というのは、今まで以上に重要性を増してきています。

我々も中小企業診断士の皆さんや千葉県協会の方々とも今まで以上に連携をして、「今、中小企業の現場、こういうところで困っているよ」とか、「こういう部分がむしろ伸びしろじゃないか」ということをいただきながら、県の産業政策の立案にも生かしていきたいと思っています。

我々としては大いに期待をさせていただいております。

石井：本日は貴重な時間をいただき、ありがとうございました。



対談の様子は千葉県協会公式YouTube動画でもご覧ください



アンフィニ編集委員 西川 靖志



協会設立65周年記念対談

コロナ禍を経て大きく変わった事業環境と組織体制、次の5年に向けて

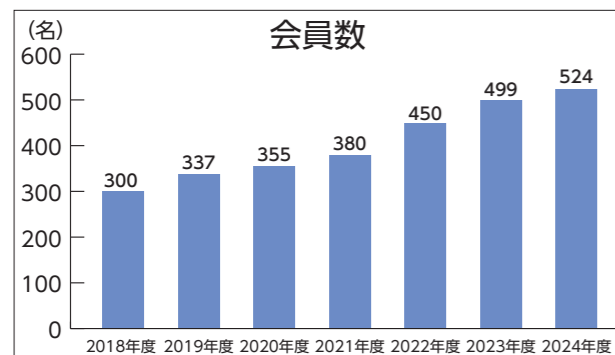
千葉県中小企業診断士協会は、2024年に設立65周年を迎えました。近年大きく社会情勢が変化していますが、2019年の60周年から現在までの5年間について、会長、副会長に協会内外で起こった出来事の振り返りや今後の展望についてお話を伺いました。

石井 孝昌 会長（以下石井） 茂木 俊裕 副会長（研修部部长）（以下茂木）
 川村 浩司 副会長（地域振興部部长）（以下川村） 齋藤 宏樹 副会長（総務部部长）（以下齋藤）
 インタビュアー：アンフィニ編集委員 相馬 麻須美（以下相馬）

		協会トピック		外部環境
		出来事	状況変化	
R1年	2019年	ホームページを協会で作成	営業体制が整った	
R2年	2020年	各種イベント中止、オンライン対応	補助金、窓口相談依頼が急増	新型コロナウイルスまん延
R3年	2021年	イベントレポートチーム発足、クラウド会計システム、クラウド個人番号管理システム		
R4年	2022年	石井会長就任、プロジェクト推進室発足、kintone導入	オンラインとリアルの両方で対応する体制が整った	
R5年	2023年	広報部発足、事務所移転、南関東ブロックスキルアップ研修開催		インボイス制度開始
R6年	2024年	65周年記念式典開催、定款変更、理事の増員	補助金の取り扱いが急激に減少	フリーランス新法施行

5年を振り返って

相馬：2019年から2024年の5年間で様々な変化があったと思いますが、印象に残っていることはどんなことでしょうか。



2020年は新型コロナウイルスの影響で世の中が大きく変化した年でした。

また、会員数は2019年が337人で、現在（取材当時2024年11月）が524人なので、200人も増えました。



石井孝昌会長

石井：2019年は今井先生が会長を務められていましたが、今井体制として、イベントや営業体制がほぼ確立した年でした。今井先生になってから、商工団体や金融機関向けに窓口担当者を

置こうということになったんです。それらがだいたい定着してきた頃ですね。

川村：この5年で、商工会・商工会議所、県内金融機関、保証協会との連携はより進みました。今年は県内全ての金融機関と協定が結ぶことができました。

齋藤：2020年のコロナの影響はいろいろとありましたね。事業者さんとの面談がWebになったり、専門家派遣も来ないで欲しいと中止になったりもしました。



川村浩司副会長

川村：コロナ対応といえば、行政系の窓口相談の募集と運用についてです。コロナウイルスの人への影響がまだ十分に分からず、且つ感染すると重症化へのリスクが高いとされていた時でしたので、とても気を使いました。ただ、コロナであろうが、事業者への相談対応を止めないという思いで動いたのを覚えています。

茂木：支援する場合でも、いろいろ決断しないといけないことがありました。診断士協会として、会員のために感染リスクを避けるためにリアルの面談を行うのかどうするか、とかですね。

やるしかなかったオンライン化対応

相馬：協会の運営面ではどんな変化があったのでしょうか。

齋藤：イベントが中止になったり、オンライン

になったりしました。理論政策更新研修は、診断士資格の更新要件ですので、中止にすることができないため、オンラインで開催しました。

石井：これまでリアルの交流を大事にしてきましたが、それが無くなってしまって戸惑いました。ただ、一方でデジタル化が進んだ時期でもあるので、それは良い面ですね。

相馬：オンライン対応への切り替えはスムーズに行えたのでしょうか。

石井：もうね、強制切り替えですよ。やるしかなかった。

齋藤：オンラインの理論政策更新研修が大変だったことをすごく覚えています。研修中に途切れてしまうことは絶対に避けなければならなかったもので、茂木先生が相当苦勞されてましたよね。



齋藤宏樹副会長

茂木：理論政策更新研修の1回目のオンライン対応は開催側も受講者側も初めてのことでしたから、みなさん混乱していました。



茂木俊裕副会長

研修部も準備して臨みましたが、想定通りには行かず、操作に不慣れな方もいますし、音声のコントロールもうまく出来ず、チャットが飛び交うなどかなりの混乱を招いてしまいました。それでもどうにか初回は無事？終わらせることはできましたが（笑）

齋藤：あれは伝説ですよ（笑）会場にいたのでよく覚えています。

川村：私はzoomで参加していましたが、カオス状態だったのをよく覚えています（笑）

茂木：新入会員研修もオンラインになりましたよね。一度中止も検討しましたが、新入会員は毎年いらっしゃいますし、出来る限りで開催しようとなり、例年6月開催ですが、2020年は7月開催になりました。

石井：オンラインでの活動をするようになって私たちの考え方も変わった面があります。仕事や家庭の都合でリアルでは参加しにくいけれどオンラインなら参加を検討したいという人が相当数いらっしゃるということを知ることができました。

一方で、オンラインが充実するのは良いのですが、その人の持つ雰囲気は会わないとわからない面もありますから、それぞれのバランスは非常に重要ですね。今も模索しています。

茂木：イベントも勉強会も、会員数が増えて会場だけで開催することが難しくなってきました。Bプロ勉強会（405事業：経営改善計画策定支援事業の勉強会）も相当人数が増えていますね。

石井：今年のBプロ勉強会は、石井伸暁先生の提案でオンラインとリアル両方で行うことになりましたが、これも新しい取り組みです。

茂木：オンラインだと参加しやすいですし、あとは録画ができるのが良いですね。当日参加できなくても、後から見られるのはすごく良いです。

石井：そうですね。勉強会の仕方もだいぶ変わりました。資料も必ず提供するので、それを元に参加者は自分のコンテンツにできるのもいいですね。千葉県協会は元々ナレッジを共有しようという気持ちが強いのですが、ようやく仕組みになってきました。勉強会の参加者がすごく増えていて驚いています。



茂木：これまで研修は紙の資料を配布していましたが、データ送信になったので、準備も効率的になりましたね。以前は理論政策更新研修の資料を印刷して配布するだけでも相当な準備と時間がかかっていました。研修部員制度の前は理事全員で準備していた時もありましたね。

大きくシステム化が進んだ

相馬：その他、協会の組織や管理面ではいかがでしょうか。

石井：昨年度は広報部ができました。機能を集約して情報発信を強化していこうという目的です。

齋藤：ソフトが変わりました。kintoneもそうですし、会計システムもクラウドに変えて、システム化がだいぶ進みました。個人番号の管理もソフトが入っています。以前はExcelを駆使し

て運用していたので、事務の効率化が進むとともに、セキュリティ面でも万全な状況になったかと思います。事務局の小川さんに来ていただいたのもこの5年です。

石井：会員の管理はそうでしたそうでした（笑）以前は事務局が一人だからExcel管理でも良かったけれど、事務局も人数が増えたので、共有しないといけなくなって、システム化が進みました。

茂木：社員が入って事務局も組織化しましたね。

石井：あとは定款変更があります。慎重に議論をして進めました。これをきっかけにして、会員の方々に協会の仕組みを知っていただくという取り組みにもつながりました。

変更に伴う動画の撮影は、実は何回も取り直しをしていますがね。小森会員支援部長から長いって言われて（笑）何度もNGを食らいながら撮影しました。

定款変更によって理事の人数が増えて、層が厚くなりました。若手の理事が増えてエネルギーになりましたね。同時に会員の皆さんへアンケート調査も行いましたが、とても良い機会になったと思います。



齋藤：アンケートは会員の思いがいろいろ分かってよかったですね。

石井：定期的にやっていきたいですね。

急増した補助金申請支援

相馬：事業者支援ではどんな変化がありましたか。

石井：事業面では、コロナ禍において大きな変化がありました。環境変化が大きすぎて事業計画を立てにくい状況となってしまう、Bプロ（405事業）は件数が激減しました。逆に、補助金申請支援と窓口相談は激増し、案件を担当していただく専門家を探すのが大変だった時期もありました。



川村：当時、診断士が補助金申請支援をするかどうか様々な意見がありましたけれど、千葉県協会は当時の今井会長が、経営支援の一環として支援をするという方向性を決めて、積極的に引き受けることにしました。結果的にたくさんの案件にかかわることができました。

金融機関や商工会、商工会議所から補助金の相談があって、それを協会の誰かに担当をお願いしていますが、実はお願いするその手前の窓口担当の時点で、相当数を断っていました。具

体的には補助金の必要性が低いものや主旨に合っていないもの、事業性が低いものなどになります。

石井：協会全体として、補助金の相談があったうちの半分は案件化されていないです。無理に補助金を使うことを目的にはしていないのでね。

川村：事業者の経営を良くするという目的の中で、手段として補助金の活用があるということに対応していました。

窓口相談年間2000件

石井：窓口相談はすごい件数でした。商工団体の窓口相談は昨年1年間で延べ約2,000人です。コロナの特別予算で急増しました。これだけの人数の窓口相談の対応は私たちしかできないんですよ。診断士の人数がたくさんいるところできないとできませんからね。これによって、地域を面で支援するという我々の意識を高めることができましたし、支援機関の皆様は診断士を知ってもらうきっかけになりました。

相馬：オンライン相談の場合もあったのですか。

石井：ありました。でもリアルもけっこうありましたね。

茂木：すごく距離をとってパーテーションを立てたりしてやっていましたね。

相馬：コロナが落ち着いてきてからの支援内容に変化はありましたか。

石井：今度は資金繰り支援、人手不足、価格転嫁とつながっていますね。私たちはインフレを経験していない世代なので、新しい知識も入れて感覚も変えてやっていかないといけないと思っています。

川村：あとは、廃業に対する支援も顕在化してきた点でしょうか。事業承継も重要ですが、廃業も一つの選択肢として定着化してきた感じがあります。

ここ数年で協会への相談が増えていますので、様々な課題への対応が求められています。会員が増えて、そうした課題解決の提供も増えた一方、協会として、対応ルールなどの整備がより求められていると感じています。

次の5年に向けて

相馬：次の5年間に向けての展望などお聞かせいただけますか。

石井：ミッションを大事にしながら、地域における立場は変わらないので、それを大事にしていきたいですね。「集いの場をつくる、学びの場をつくる、地域に貢献する」も変わらず実行していきます。

非常に会員数が増えて、その人達の力をどうしたら活かしていけるのかというところです。地域にも活かしてほしいし、個々の生活も充実したものになって欲しいです。

それにしても千葉県協会の人材の厚みはすごいですよ。最近はkintoneでデータを蓄積していますので、専門家を探しやすくなりました。あるお客様からエネルギー管理士資格を持ってい

る人を探してくれと言われ、そんな人いないだろうと思ったけれど、検索したら結構いらっしゃるんですよ。サーフィンができる人を探してくれといわれたこともあります。それも支援に関連してなんですけどね。趣味がサーフィンって書いている人も見つかるんです。

相馬：会員データベースがとても活かされているんですね。

石井：それから、千葉県協会は他の都道府県協会と比較すると、商工団体や金融機関とのつながりがすごく強いんですが、行政とのつながりはまだまだだと思います。ですので、もっとつながりを強めて頼りにされる存在になりたいですし、中小企業支援の現場を知る我々から何かしら提案する機会も作っていくべきだろうと考えています。今回、熊谷知事との対談が実現しましたので、ぜひきっかけにしていきたいと思っています。



齋藤：私は協会運営についてですが、事務局の更なる業務の効率化や契約書の電子化を進めたいですね。事務局も人数を絞ってやっていく予定なので、少ない人数で回していけるようにしていきたいです。あとは、コワーキングスペースやレンタルオフィスなど、会員の方々向けのサービスを充実していきたいです。

茂木：念願の会議室ができたのも大きいですね。ずっと前から言っていましたからね。

茂木：研修部についてですが、元々研修部は、理事だけでなく、新しい風を入れたいということで研修部員制度を始めたんです。今回、リアルからハイブリッドになっていき、研修部員との活動が機能していると強く感じました。会員も増え、オンラインで参加しやすくなり、内容も多様化し、また各研修部員の頑張りが全体に広がっているように感じています。

今年度に3つの新規事業（企業内診断士の勉強会、診断士の歩き方、リアルサロン）を始めましたが、研修部員制度の良さを改めて感じました。今までは研修を提供することが主でしたが、今回は「まずはやってみる」こととし、参加者の意見を聞きながら進めていこう、といった発想になったので、より会員の声に耳を傾けるようになったと思います。既存の研修をはじめ、一定のスキルの提供はもちろん重要ではありますが、弾力的に、そして一緒になってつくっていくことの必要性も感じています。

川村：営業部隊としては、職域拡大がテーマです。まだ攻め切れていない先がたくさんあります。また、営業機能の更なる拡大を上手く作り上げて行きたいと考えています。経営課題も多様化していますので、診断士ということベースにそれぞれが持っているスキルを発揮できるT型人才がさらに、横も縦も広げていくことが求められています。協会として対応力を強化していきたいです。

アンフィニ編集委員 相馬 麻須美



今井相談役(前会長)が経済産業大臣賞受賞！ 激動の会長時代を振り返る！

今井相談役(前会長)が2024年11月5日、日本中小企業診断士協会連合会の創立70周年記念式典において「経済産業大臣賞」を受賞され表彰されました。

このたびは、会員の皆さんに受賞を共有するとともに、今井相談役にインタビューをし、会長時代を振り返っていただきました。



経済産業大臣賞を受賞した今井相談役

桂川：今井相談役、この度は「経済産業大臣賞」受賞おめでとうございます。

今井：ありがとうございます。千葉県支部を含めて理事を25年、うち会長8年、本部理事10年等の活動が評価されてのものと思います。ただ、これらの活動は理事の皆さまや会員の方々に支えられて初めて成り立っているものであり、私個人が受賞したとは思っていません。

桂川：そうはいつでも今井相談役のリーダーシップのおかげで千葉県協会がここまで成長できたとか会員の皆さんが感じているのではないのでしょうか？今一度経済産業大臣賞受賞を振り返ってどのあたりが評価されたのでしょうか？

今井：診断士になった当初は東京支部に所属していましたが、平成7年に独立してすぐ千葉県支部に移り、大塚先生はじめ先輩方にいろいろお世話になりました。平成11年から協会理事になり、それから数えて丸25年、会長を4期8年、副支部長と副

会長も計3期6年やりました。また、連合会本部の理事は会長時代の4期8年とプラス1期2年、今年で終了しましたが、合わせて5期10年やりました。その間、広報委員、広報委員長も務めさせていただき、これらが評価されたのだと思います。あとはBプロジェクト(認定支援機関としての経営改善計画策定支援事業/405事業)もあるのではないのでしょうか。Bプロジェクトは連合会としてもすごく評価してくれていて、10年ぐらい前になりますが、当時の野口専務と一緒に中小企業庁の経営支援課長初め3人ぐらいに取組内容を説明に行った思い出があります。そういったものも連合会で評価され、受賞につながったと思います。

ただ何回も言うように、私個人が受賞したという認識よりも、桂川さんをはじめ皆さんが千葉県協会のためにボランティアを一生懸命やってくれて、その東ね役的なことは会長時代にしてきたんですけれどね。だから皆さんを代表して表彰されたような感じでしか捉えてないんですね。だからこそ今後も千葉県協会の発展のために微力ながら引き続き貢献したいと思っています。



山下隆一中小企業庁長官とツーショット

桂川：ありがとうございます。会長時代の4期8年を振り返ってどんなことが今思い出されますか？

今井：平成26年5月27日の定時社員総会で会長就任あいさつを行った際、①協会運営にあたっての体制整備、②連携体制の強化、③協会のレベルアップの3つの観点で協会運営に努めたいと表明しました。振り返りもその3点でしていきたいと思っています。

協会運営にあたっての体制整備

今井：会長就任当初は協会内部も混とんとした時代でした。あの混とんとした状態で、自分の仕事も忙しいのに協会のためにこれ以上のボランティアをやったら経済的に破綻してしまうと思いやりたくなかったんですが、やらざるを得ない状況となり受けてしまいました。思い返してみると、今は立派な事務局がありますけど、私が会長になったときは中央会で机を二つほど借りて、会長席なんて元々ないし、当時パートの事務員さん二人からのスタートでした。その後、事務員さんの正社員化とパート事務員さんの充実、常勤役員の設置、事務局の独立など、協会の財務状況に合わせて少しずつ事務局を充実させていきました。また、コンプライアンスについても、(弁護士である)本田先生に理事になっていただき、専門家の意見とか当時の高岡専務、高橋総務部長をはじめ皆さん方でいろいろ検討してもらい、規程などの最低限の決まり事に則った組織運営ができるようになりました。現在はコンプライアンス上もそれ程大きい問題はなくなり、協会運営体制の基礎は作れたんじゃないかと思っています。

連携体制の強化

今井：連携は内部の連携と外部の連携があると思いますが、まずは内部の連携から。特筆すべきは研修部委員制度の創設ですね。茂木副会長(研修部長)が始められたのですが、今では会員支援部、



理事会後に急遽インタビュー

広報部にも委員制度が広がっています。次世代のリーダーを育成する委員制度の効果が発揮され、協会活動は年々充実してきています。また、委員制度で育った方たちが実際に理事に就任してきています。企業内の方も含めていろいろ活躍される方も増えているし、イベントも増えているし、人材育成のいい流れの基礎が作れていると思います。

外部との連携に関しては、事業部から地域振興部(各支援機関との連携)と経営支援部(各金融機関との連携)へと組織的拡充を図り、合わせて営業部の月1回の営業会議によるPDCAサイクルの確立を行ってきました。コロナ禍でもWebで継続してやってきましたが、結果から言うと、コロナ禍によって窓口相談事業や補助金申請支援事業など、外部環境の急激な変化に対応することにより職域がさらに拡大されました。

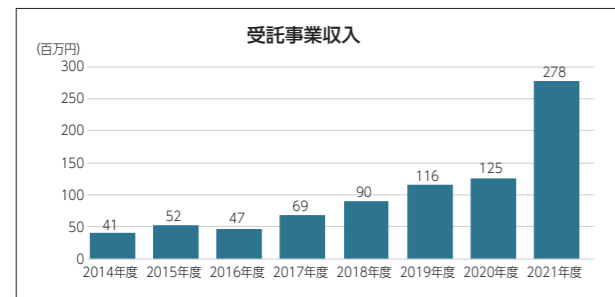
現在も各支援機関や各金融機関との連携強化による職域が拡大していますが、私の会長時代に営業部の皆さんのご協力によってある程度の基礎固めができたのではないかと思います。

桂川：営業会議のしくみは今井会長時代に作られたんですか？

今井：私が会長になる前には事業部があって、当時理事25名のうち、3~4名くらいしか事業部にはいなかったのです。そのうち動ける営業部員としては石井さん(現会長)ぐらいしかいなかったん

今井相談役(前会長)が経済産業大臣賞受賞！激動の会長時代を振り返る！

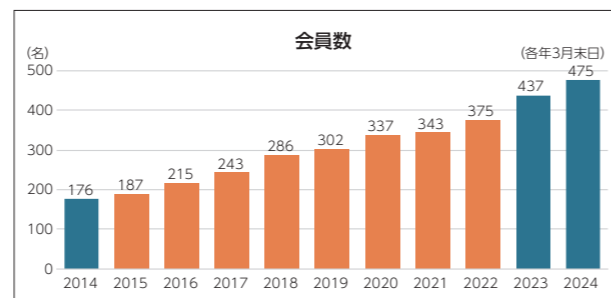
ですね。それもどちらかというと受身の営業体制であり、Bプロが始まる前は100万円も事業収益がなかったのではないのでしょうか。Bプロは私が会長になる前に石井会長と茂木副会長の3人が中心となり、伊藤監事をはじめとする専門分野をお持ちの仲間が協力して立ち上げた事業です。金融機関との連携を強化して広がったBプロは、現在のあらゆる協会事業の根幹になってきていると思います。話を戻しますと、動ける営業部員が実質1人の営業体制から、営業部を地域振興部と経営支援部の2部制にし、さらに11部あった組織の集約化により動ける営業部員8名に人数も増員させました。そして、当時は〇〇商工会議所はだれだれ先生が、〇〇商工会はこれこれ先生が、といった診断士と支援機関の担当者の個対個の職域関係が多かったのですが、「何か困ったことがあれば千葉県協会に」といった未来永劫続く組織対組織の関係構築が必要であるとの考えから、営業部員全員に担当の支援機関や金融機関を割り当てました。各担当者の営業活動の進捗管理のために始めたのが月1回の営業会議です。営業会議によってPDCAを回し、目標や狙いを持って活動すれば当然のことながら結果は出ますよね。優秀な人たちですから。それが今につながっていると思います。



協会のレベルアップ

今井：千葉県協会が清々と発展していくために、また会員の皆さまが活躍する場を増やすには品質の向上と会員の増強が必要だと思いました。協会が行う受託事業については、品質保証の観点から、残念ながら会

員誰でも平等に機会を得ることはありません。事業としてふさわしい会員にご担当いただき、対象企業をはじめ、連携する支援機関、金融機関等の信頼を得ることが、千葉県協会の発展につながります。結果として、会員の皆さまのメリットにつながると会長就任時より確信していました。そのため収益事業における勉強会の実施やサブ担当制の導入、研究会活動におけるレベルアップに向けた活動など、会員の皆さまの品質向上に努め、担当者として任せてもらえるように、レベルアップのしくみを作ってきました。また、セミナー講師の育成・発掘のため、「セミナー講師養成講座」や「セミナー講師発掘プレゼン大会」なども理事にお願いして新たに企画しました。これらも現在続いており、会員の皆さんのレベルアップや職域拡大に少なからず寄与していると感じています。



桂川：あと私もそうなんですけれども今井先生に実務補習で教えていただいた人がたくさんいると思うんですけど何人ぐらいいらっしゃいますか。

今井：どうですかね。7月～9月と2月～3月に大体1回5人チームとして1年で10人だとしたら、約15年で150人ぐらいは教えていますね。今の理事でも半分近くはいるんじゃないでしょうか。ただ、残念ですが、全ての方が千葉県協会にご入会いただいているわけではありません。

桂川：今井先生のイズムっていうのを最初にたたき込んでいただいたことは良かったなと思って、そういう人が千葉県協会にはたくさんいらっしゃるんですね。自分の師匠が今回経済産業大臣賞という素晴らしい賞をいただいたのはすごく本当に喜びなんですよ。

今井：そうおっしゃっていただいて嬉しいですけどね。やっぱり教え子だっという感覚は私もあってね。

桂川：千葉商大の卒業生も含めると結構な人数になると思うんですね。

今井：そうですね。企業診断の指導員をやらせていただいた方っていうのは、やっぱり関係が深いかなっていうのは感じますね。私が指導員だと、受講される方は大変かもしれないですが、せっかく診断士の資格を取るんだらっていうことで、こちら真剣に一生懸命やっています。

桂川：最初にそれを教えていただくっていうのは大事なことだなと思います。今でもその当時のメンバーで話をするとやっぱり厳しかったという話は今でも出ますね。

桂川：次の70周年に向けてです。あえて今の体制に対して物申すじゃないですけど、こういうふうになって欲しいとか、こういうふうにしてほしいとかはありますか。

今井：今新しい理事の方も入って、いろいろな意見とか企画とかも出してもらっています。あと理事以外からの意見、今回石井会長が定款変更に伴ってアンケートを取ったわけですが、すごく良かったと思うし、あれから新しいイベントも創出されていると思うんです。時代の流れに沿った形で協会が成長してるなって感じています。中小企業の皆さま方に我々が常日頃言ってるように、我々の組織自体が環境変化に柔軟に対応して、今の時代に適合する、会員からも外からも評価される組織であり続けるよう努力することが重要だと思います。石井体制になって、新しい課題を持ちながらしっかりと前に進んでいると思うので、今の状態で進んでほしいですね。その中で、自分が少しでも役立つところがあ



ればお手伝いしたいなと思います

桂川：さいごに千葉県協会の会員に向けてメッセージをお願いします。

今井：人生においてはそれぞれのタイミングっていうのがあると思うので、今現在、協会活動に参加できてる人もいれば、なかなか参加できてない方もいらっしゃると思います。ただ人生100年時代、健康であればいくらでもその診断士の資格を生かした自分の成長につながる仕事っていうのは、やろうと思えば実現できると思います。そういった面では、今参加できている方はそのまま一生懸命頑張ってほしいですし、今そういうタイミングではなく、なかなか参加できない人も、ゆくゆくは自分のタイミングで千葉県協会に積極的にアプローチしてもらって、自分の人生をより豊かなものに是非してほしいですね。診断士としての仕事は、社長さんに「ありがとう」とお礼を言ってもらえる仕事です。そういった仕事を定年がなくできるし、自分の努力次第でそう言っていただく機会も増えます。いずれにしても、千葉県協会とつながってほしいですし、うまく活用してほしいと思います。

桂川：今井相談役、ありがとうございました。



広報部長 桂川 慎一

創立65周年講演会・祝賀会開催 新たな理事会体制でネットワークを強化



千葉県中小企業診断士協会は、2024年6月14日（金）、創立65周年記念講演会・祝賀会をホテルポートプラザちばにて開催しました。1959（昭和34）年に「社団法人中小企業診断協会千葉県支部」として創立、今年65年を迎えての開催です。

会に先立ち、定時社員総会では29名の理事が選任され、新たな理事会運営の体制が整いました。

今回は、65周年を迎えるにあたって、理事会体制を強化した目的や、65周年講演会・祝賀会について、石井孝昌会長（以下、石井）と齋藤宏樹副会長（以下、齋藤）に話を伺いました。

藤井：理事の増員は定款変更を伴う大きな変更ですが、どのように進められたのですか？

石井：会員にアンケートを実施し、協会への満足度などを聞きました。75%の方は満足という回答でしたが、会費のコスパや仕事のアサイン

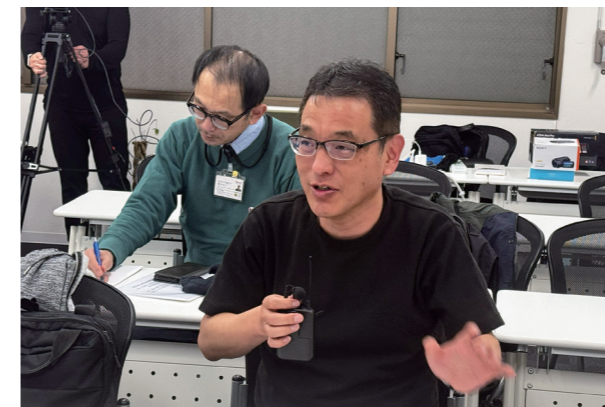
の透明性についてはやや不満という結果でした。理事増員については、「賛成」56%「反対」4%「どちらでもない」40%と非常に微妙な結果でした。理事増員のためには定款変更が必要なので、「どちらでもない」という方にも賛成していただけるように準備をしました。

藤井：具体的にはどのような準備をされましたか

石井：3月に「理事の増員・定款変更に関する説明会」を開催しました。



理事増員に対して、おおむね賛成の方が多かったのですが、（人数が多いと）ガバナンスの難しさが出てくるといふ反対意見もありました。しかし、理事が増えることは、多くの人の意見を聞く機会が増えることになります。



また、仕事のアサイン面で不満があるという方には、営業人員が増加されるので、受注先と会員とのコミュニケーションの繋ぎ役の機能が強くなりご要望に応えられると説明し、最終的には判断しました。

藤井：その後4月の「臨時社員総会」で理事定員数変更の議案が可決されたのですね。

議決権のある481名に対して、361名の賛成が得られ3分の2を超えました。



藤井：新たな理事はどのように選任されたのですか？

石井：候補者の選考委員会を開いて、選考基準に沿って選びました。

藤井：新任理事を加えた新たな体制によって協会に変化がありましたか

石井：今回、特に地域振興部と経営支援部の増強を図り営業強化するというのが目的の一つで、各部で顧客、商工団体や金融機関とのネットワークを強化しているところです。

現在までの成果として、県内11あるすべての金融機関と連携協定・業務協定が結ばれました。また、商工会議所などの機関の担当者とのコミュニケーションが密になってきていると思います。

藤井：創立65周年講演会・祝賀会についてお聞かせください

齋藤：銀行や商工団体から50名以上の方々に来賓としてご参加いただきました。講演会では、「超一流の雑談力」の著者である安田正さんをお招きし、相手のタイプに応じた営業活動での成果の出し方などを学びました。今回、嬉しかったのは、協会として初めて熊谷俊人千葉県知事からビデオメッセージをいただいたことです。



石井：千葉県協会は、他県の協会と比べると金融機関等との関係性は強いのですが、行政との結びつきがやや弱い傾向にあり、今後は、県など行政との関係も強化していきたいと考えています。

アンフィニ編集委員 藤井 啓子



新任専務理事紹介

2024年6月に、千葉県協会の専務理事に山中功さんが就任され、協会運営全般をサポートしていただくことになりました。



山中 功 (やまなか いさお)

・協会入会年/2024年 ・趣味/旅行

●自己紹介コメント、意気込みなど

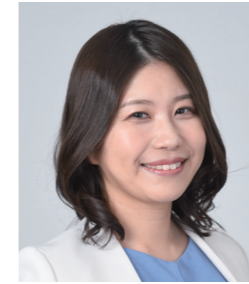
千葉県出身、昭和63年中小企業診断士登録。
電機メーカーを経て、千葉県庁へ入庁。主に商工労働部で産業振興や中小企業支援に携わる。
定年退職後、千葉大学で産学官連携業務に従事。
専務理事として、千葉県協会の円滑な運営に貢献したいと思います。

●千葉県協会の好きなところはどこですか？

様々なキャリアや得意分野を持った中小企業診断士が数多くいること。

●今後、千葉県協会をどのようにしていきたいですか？

千葉県内の中小企業から、最も身近な相談相手として信頼される協会になるよう注力していきたい。



鈴木 園子
(すずき そのこ)

・協会入会年/2020年
・独立or企業内/企業内
・趣味/ゴルフ

●自己紹介コメント、意気込みなど

地元千葉県の中小企業の成長と発展に貢献できるよう、精一杯努めてまいります。また、協会の発展と会員の皆様の活動を後押しするため、全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



相馬 麻須美
(そうま ますみ)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/独立
・趣味/デザイン・サウナ・キャンプ
(連れて行ってもらう)・Snow Man(佐久間くん推し)

●自己紹介コメント、意気込みなど

千葉県協会に入会してから、様々なことを学ばせていただき、楽しい仲間もたくさんできて本当に感謝しています。少しでも恩返しができるように頑張ります。



高橋 寛
(たかはし ひろし)

・協会入会年/2020年
・独立or企業内/独立
・趣味/フェスやライブ・ランニング・ジムトレーニング

●自己紹介コメント、意気込みなど

今年度から地域振興部に所属している高橋です。会員の皆様が強みを発揮し活躍できる場をより一層創出したいと思いますので、ぜひ気軽に話しかけてくださると嬉しいです。よろしくお願いいたします。

新任理事紹介

2024年6月に就任された9名の新任理事をご紹介します。



江口 光司
(えぐち こうじ)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/企業内
・趣味/読書・ゴルフ・音楽&映画&落語&YouTube鑑賞

●自己紹介コメント、意気込みなど

総務部の新任理事、江口です。総務部は、総会や理事会の運営、事務局管理などなど、円滑な協会運営に貢献しています。私もこれから自身の能力をフルに発揮し、より魅力的な協会となるよう尽力します。



日下 正浩
(くさか まさひろ)

・協会入会年/2018年
・独立or企業内/独立
・趣味/読書・ゴルフ

●自己紹介コメント、意気込みなど

新任理事を拝命した日下です。少しでも会員の皆様が「所属してよかった」と思ってもらえるよう、頑張りたいと思っております。お久しぶりの方も、新入会員の方もお気軽にお声がけください。よろしくお願いいたします。



小泉 孝之
(こいずみ たかゆき)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/独立
・趣味/ランニング

●自己紹介コメント、意気込みなど

理事として協会運営や支援機関様との協力を通じて、中小企業支援の強化に尽力したいです。また、中小企業診断士の価値向上や多様な専門分野を持つ診断士同士の連携を強化し、より広範囲で高品質な支援が可能になるよう取り組みたいです。



竹内 敦
(たけうち あつし)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/独立
・趣味/サーフィン・車中泊

●自己紹介コメント、意気込みなど

今年度より研修部およびプロジェクト推進室の理事となりました。私は千葉県協会のアットホームなところが好きです。協会活動の中では、会員の皆様のスキルアップやコミュニケーションの機会を主に研修という形でサポートさせていただきたいと思っています。



永見 周太郎
(ながみ しゅうたろう)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/独立
・趣味/子育て奮闘中

●自己紹介コメント、意気込みなど

主に地域振興部で営業活動に取り組んでいます。協会員歴自体は浅いですが、その分過去の背景等を気にせずチャレンジしたいと思います。飲み会やゴルフに中々参加できていませんが、数年したら参加させてください。



宮前 治
(みやまえ おさむ)

・協会入会年/2022年
・独立or企業内/独立
・趣味/日本酒仲間を増やす・被災地のお手伝い(ライフワーク)

●自己紹介コメント、意気込みなど

会員支援部&プロジェクト推進室の担当です。私自身、千葉県協会の活動を通じ診断士業務を幅広く経験させていただきました。これからは理事として、会員の皆様の円滑な協会活動に貢献できるよう努めて参ります。

アンフィニ編集委員
喜多 康人



新任理事座談会

新任理事の皆さんをより深く知っていただくため、座談会を開催。
和気あいあいとした雰囲気の中で、皆さんの想いを語っていただきました。

(座談会にご参加いただいた理事は6名で欠席された方は事前にいただいたコメントで掲載しています)

テーマ1

これまでのキャリアや強みを教えてください。

江口：採用・離職防止・人材開発などの人事業務と介護業界の経験があり、中小企業診断士にしては珍しい専門性を持っているのが強みです。



江口理事

永見：前職では文具メーカーで新商品開発に携わり、商品コンセプト策定や消費者調査、データ分析を得意としています。

相馬：住宅設備メーカーの営業や飲食店バイトを経験しました。モノや情報を分かりやすく整理すること、新しいことやアイデアを考えること、円滑なコミュニケーションが得意です。



相馬理事

日下：診断士として経営改善や補助金などの支援を行ってきました。食品メーカー在籍の経験も活かし食品製造業の衛生管理指導などもできます。



日下理事

高橋：酒類卸で23年にわたり営業(売る)・バイヤー(買う)・商品開発(作る)を経験したことが強みです。



小泉理事

小泉：医薬品業界で営業をやってきました。医療業界のことはすべてお任せください。誰とでも仲良くなれることも強みです。

竹内：建設業5年、製造業5年を経て診断士活動を開始しました。製造業、建設業、福祉業を中心に、経営改善、補助金、M&A、資金繰り改善など幅広くサポートをさせていただいています。

鈴木：企業内診断士として、日本株を含めた資産運用業を行っています。企業経営全般や財務、ガバナンス、サステナビリティ経営の分野に強みがあります。



鈴木理事

宮前：銀行出身ということで、資金繰りやリスクに関するご相談・ご支援・セミナー等をお受けすることが多いです。

テーマ2

千葉県協会の好きなところはありますか？

高橋：協会のミッションが好きです。ミッションに共感し、集い学び貢献している先生が多いというのも魅力です。

宮前：「ちば愛」がとても強いところが好きですね。

竹内：縦横のつながりが自然と広がっていくところです。勉強会、研究会、懇親会がたくさん企画されているので能力を高めたり、仲間を広げたりするサポートが得られて日々楽しく過ごしています。



竹内理事

相馬：新しく入会した人がすぐになじめるアットホームな雰囲気が好きです。ナレッジを惜しまず共有してくれたり、新しい取り組みに前向きなところも良いですね。他にもいろいろと任せてもらえて、鍛えられるところも千葉県協会の良さだと感じています。

江口：会員同士の関係性が良く、互いの持っているスキルや情報を共有し合い、それぞれの能力を高め合っているところですね。個の能力の積み重ねが、協会のケイパビリティになっていると感じています。



小泉：独立していても自分ひとりではなく、悩みや相談を聞いてくれる懐の深い仲間がいて寂しく感じる事が無い点です。会社員時代は普通だと思っていましたが、改めて仲間のありがたみを感じています。

日下：頑張っている会員に対して、案件の紹介などのチャンスが得られる機会が多いことです。他県協会だと階層構造や会員数の多さなどにより難しいと聞いています。

鈴木：フラットな組織である点や、ポジティブで活力がある人が多くて将来の成長が期待できる組織である点です。

永見：フラットで気さくな人が多いですね。新入会員の頃、理事の偉い人も一緒に会議室の机椅子並べをしているのを見て驚きました。

テーマ3

今後、千葉県協会をどのようにしていきたいですか？

日下：みんなが切磋琢磨してスキルアップし、協会を通じた中小企業支援の質をさらに高められたらと思っています。そして所属することに誇りやステータスを感じられる協会にしていきたいです。

江口：独立診断士にも企業内診断士にも千葉県協会の魅力を感じていただき、より多くの会員がこの良い雰囲気の輪に積極的に加わっていただけるような組織にしていきたいです。

宮前：協会員の皆さまの診断士活動において、当協会が将来にわたって心の拠り所となり続ける場でありたいですね。

永見：会員の得意分野が発揮され、1人でも多くの方に活躍していただける場にできればと思っています。

小泉：千葉県協会をもっと大きくして、県内の中



小企業の皆さんが困ったときに「中小企業診断士に聞いてみよう！」と一番の相談先になるような組織にしたいです！

鈴木：県内の事業者の皆様から、中小企業診断士や診断士協会に相談しようと思っていただけるよう、知名度の向上を図っていきたくて考えています。そして協会と千葉県の成長を目指していきたくてです。

高橋：会員の皆さんと協力しながら、千葉県内すべての中小企業に知っていただき、頼られる存在にしていきたいです。

竹内：県内の中小企業の皆さんから、さらに必要とされるような協会を目指したいです。会員のネットワークを活かして、事業者さんに対して、より直接的により効果的にサポートができる機会の創出ができれば嬉しいです。

相馬：全体をレベルアップして、事業者さんや支援機関から「安心してお願いできる診断士がたくさんいる」と思われるようになりたいです。そのために、知識やスキル、マインドを磨いていける活動ができるといいなと思っています。



石井会長(後列右)と座談会に参加した新任理事の皆さん



千葉県協会を知る

集い、学び、貢献する、千葉県中小企業診断士協会のお仕事

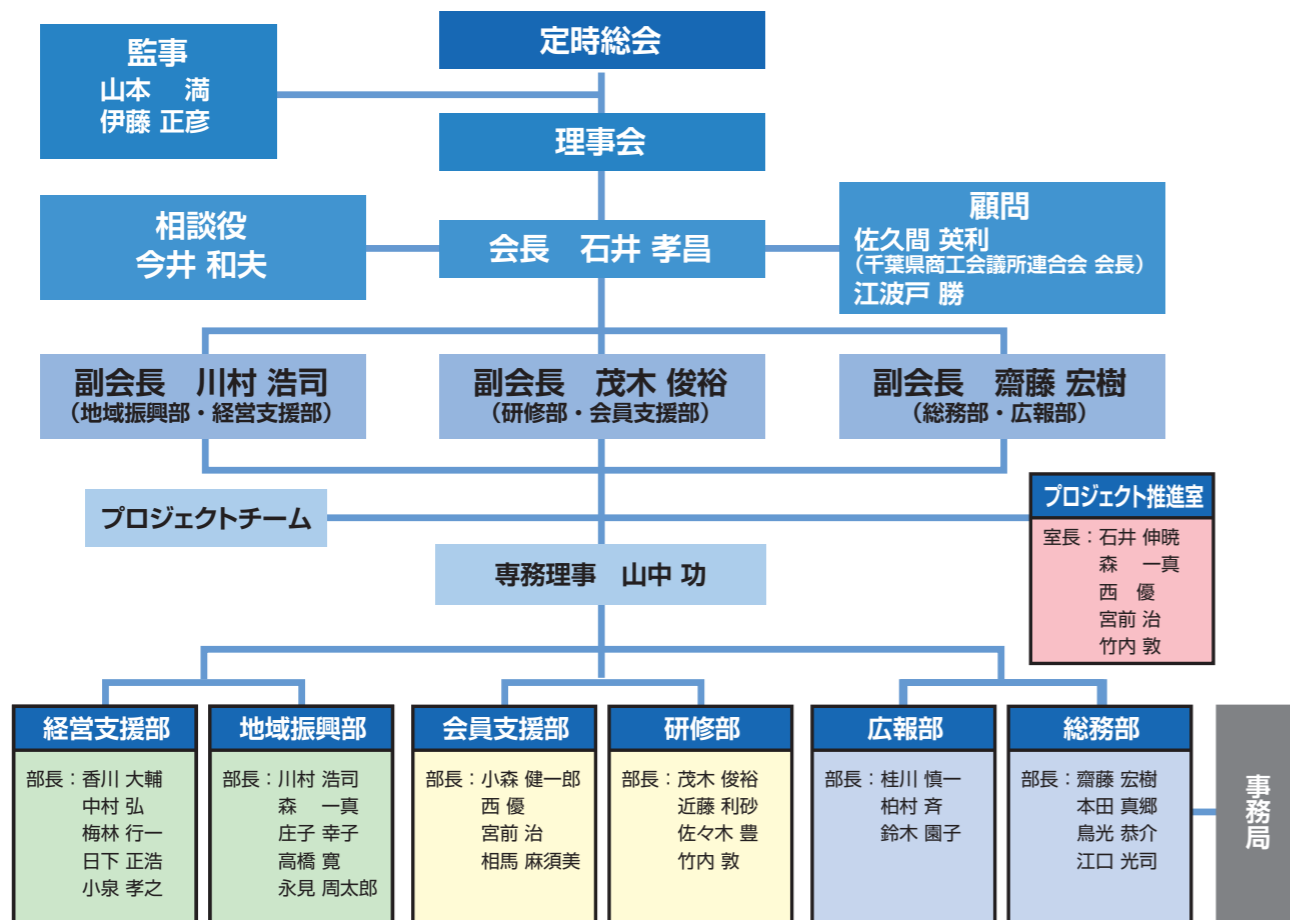
千葉県協会は経営支援の専門家である中小企業診断士を会員とした組織であり、「千葉県内の中小企業の行く先を照らし、伴走して、元気にする」をミッションとして掲げています。ここでは、このミッションを達成するための組織について、ご紹介します。

〇更に充実した本協会の組織体制

千葉県協会は、前述のミッションを果たすため、「千葉県内の中小企業支援にとって欠かせない存在となる」ことをビジョンとしています。これを実現化するため、2023年に組織強化を行い、更に2024年6月の総会では、理事の増員も実施しました。各部門は、以下の幅広い業務を分掌しており、また、「集いの場をつくる・学びの場をつくる・地域に貢献する（集い・学び・貢献する）」と言う、本協会が担うべき機能を相互にサポートしつつ、実行しています。

【組織体制】

一般社団法人千葉県中小企業診断士協会 組織図（令和6年度）



【各部門の業務分掌】

部門 部長・室長	活動内容・役割
経営支援部 香川 大輔	金融機関との連携強化
	「診断士の日」イベントの計画・実施
	千葉県ビジネス応援センター(地域プラットフォーム)の運営管理(中小企業119の活用)
	経営革新等認定支援機関としての運営管理 受託事業の開拓、推薦、紹介
	収益事業(研究会実施の事業を含む)の管理 産廃業者、外国人経営者等の経営改善計画策定支援
地域振興部 川村 浩司	行政・支援機関との連携強化
	「診断士の日」イベントの計画・実施
	商工会および商工会議所が策定する「経営発達支援計画」への支援
	受託事業の開拓、推薦、紹介
	収益事業(研究会実施の事業を含む)の管理
会員支援部 小森 健一郎	会員交流の促進(春・秋祭り)
	新規会員の加入促進
	会員の福利厚生
	実務補習事業
	実務従事事業・ポイント取得支援
	プロボノ事業
	協会所属の研究会の設立推進と管理
	研究成果の発表
	メーリングリストの管理・運営
	研修部 茂木 俊裕
会員スキルアップのための各種研修会の計画・実施	
新入会員研修会の計画・実施	
新入会員研究会の管理・支援	
新春懇親会(新入会員研究の発表)の計画・実施	
研修旅行の計画・実施	

部門 部長・室長	活動内容・役割
広報部 桂川 慎一	協会の広報・宣伝事業の推進
	機関誌の編集・発行
	メディアとの連絡・調整
	HP・SNS・YouTubeチャンネルの運営
総務部 齋藤 宏樹	総会、理事会の準備、運営
	事務局の管理、運営
	各種規程の整備
	各種文書の管理
	押印の運用管理
	個人情報の保護
	診断士バッジの管理
	備品・消耗品の管理
	資格更新支援
	大規模災害対策支援
役員賠償責任保険の管理	
予算・決算	
会計処理	
プロジェクト推進室 石井 伸暁	プロジェクトの進捗管理
	プロジェクトの人材アサイン
	必要に応じたプロジェクトの立ち上げ

【千葉県協会が担う機能への各部門の係り】



詳しくお知りになりたい方は、ぜひ、千葉県協会のホームページをご訪問ください。
<https://chiba-smeca.com/about/>





ミッション達成のための年間活動スケジュール

千葉県協会は、ビジョンを実現するため様々な活動を年間を通じて積極的に計画し、実施・実行しています。その主なものを紹介します。

4月	春の診断士祭り（本協会の活動内容について説明）
5月	全研究会の活動内容発表会（17の研究会による活動内容を報告・共有）
6月	定期総会（2024年は、65周年記念講演・祝賀会を同時開催） 新入会員研修会（新入会員の親睦と交流。翌年1月の発表会のグループ別テーマ決定）
7月	研修旅行（各都道府県協会との交流を兼ねた研修旅行く北海道函館地区） 協会研修（外部の専門家を招いた研修会） 理論政策更新研修（中小企業診断士の登録更新に必要な研修）
8月	研修講師養成講座（セミナー講師としてのスキル向上。発表内容の評価も実施） ポリテクセミナー（ポリテクセンターが行う生産性向上支援訓練事業を受託） 企業内診断士勉強会（企業内診断士を対象とした勉強会）
9月	理論政策更新研修（中小企業診断士の登録更新に必要な研修） セミナー講師発掘プレゼン大会（セミナー提案コンテスト） 診断士の歩き方（診断士として活躍するためのラーニングマップの検討）
10月	秋の診断士祭り（本協会の活動内容について説明） ポリテクセミナー（ポリテクセンターが行う生産性向上支援訓練事業を受託） リアルサロン（会員間相互の固定観念にとらわれない「ゆるい」交流）
11月	理論政策更新研修（中小企業診断士の登録更新に必要な研修） 診断士の日イベント（千葉県内の企業による講演会、支援機関による診断事例紹介） 企業内診断士勉強会（企業内診断士を対象とした勉強会）
12月	ゴルフコンペ（会員間の親睦と交流を実施）
1月	新春懇親会（前年6月から実施の新入会員研修の研究発表会）
2月	企業内診断士勉強会（企業内診断士を対象とした勉強会）
3月	診断士の歩き方（診断士として活躍するための意見交換・協議）

この他、県内の商工会様・商工会議所様、各連合会様を通じた相談窓口の対応や、プロボノ活動としての商店街の診断事業など、様々な活動を地域内の貢献活動として実施しています。今後も、千葉県協会の活動にどうぞご期待ください。

自由闊達な活動を実施。17研究会の概要紹介

研究会名	幹事	活動内容・目的	開催状況注)		
			頻度	開催日	時間
1 農業研究会	竹田 和朗	農業経営支援ノウハウの習得を目的とした農業事業者・施設の視察・実態調査	年間10回	第3土曜日	半日(現地視察) 2時間(研究)
2 特産品・観光研究会	森 一真	特産品生産現場や観光地等の視察、経営者へのヒアリングを通じた実態調査研究	年間4~5回	土日	半日(現地視察)
3 街づくり研究会	桂川 慎一	街づくりの先進事例の視察・研修とそれを通じた相互研鑽	2か月に1回 商店街診断時は、月4回程度	土日中心	終日(現地視察) 2時間(研究)
4 事業承継研究会	伊藤 大	事業承継コンサルティングのノウハウ習得	年5回	偶数月の第4日曜日	14:30-16:30
5 経営支援研究会	蓮池 寛	経営支援の実務体験と実践的経営改善手法の相互研究	毎月1-2回	土曜日	09:30-12:00
6 IT活用経営戦略研究会	相馬 麻須美	経営への活用のための最新IT技術の情報収集と知識の共有	2か月に1回	平日または週末	平日は、終業後 2-3時間
7 国際ビジネス研究会	井澤 寛延	貿易実務知識の習得と日本に関連する海外ビジネスの研究	2か月に1回	奇数月の第3土曜日	2時間
8 診断士スキルアップ研究会	石井 伸暁	創造性または付加価値向上のための事例発表と意見交換	3か月に1回	偶数月の第4日曜日	2時間
9 パラダイムシフト研究会	井上 俊宏	企業内診断士支援を目的とした多業種の経営診断の実施	年に2案件	1案件あたり約4か月 で6~8日(土日祝)	半日(現地視察) 2~3時間(研究)
10 創業支援研究会	近藤 利砂	千葉県内の開業率の向上を目指した創業支援の知識習得と実践を通じたスキルアップ	年10回	土日	2~3時間
11 製造業研究会	岡 輝英	中小製造業の課題解決を踏まえた、診断スキル向上とコンサル集団の形成	2か月に1回	第3金曜日	18:30-20:30
12 知的資産経営研究会	若林 豊	ロカベン等の知的資産ツールによる企業支援機関との対話スキル向上と実践	毎月1回	第3日曜日	15:00-17:00
13 飲食店研究会	渡邊 太郎	飲食業界の知見深化とコンサルティングノウハウの習得	年間4~5回	土日中心	3時間
14 中小企業支援施策研究会	香川 大輔	国および地方の中小企業施策の研究を通じた、診断士スキルの向上	2か月に1回	第2土曜日	17:00-18:00
15 SAKE研究会	庄子 幸子	千葉県の酒の情報発信による酒関連業界支援への貢献	年間4~5回	土日中心	15:00-17:00
16 ブラッシュアップ研究会	中村 弘	診断士として能力向上による中小企業発展への貢献(原則50歳以上に限定)	2か月に1回	偶数月の第3金曜日	18:30-20:30
17 生成AI研究会	西 優	生成AIの基礎から導入事例、活用方法までを学び、情報・意見交換の場を提供	毎月1回	第4火曜日	19:00-20:00

注) 直近1年間の活動実績などを元に集計した。今後の日程については、各研究会にて必要に応じ、協議・改訂がなされる。

生成AI研究会

生成AI研究会は2024年2月から活動を開始しています。幹事の1名である西優さんに発足の背景、これまでの活動内容そして今後の抱負についてお話を伺いました。

○発足の背景

生成AIの活用が社会的に話題になる中、中小企業診断士として生成AIを活用した中小企業支援のあり方や、中小企業診断士自身の生産性向上の必要性が協会内で議論されるようになりました。協会会員である山下理夫さんを中心に有志が集まった結果、2024年1月の理事会で研究会の承認を得て現在に至ります。

○これまでの活動内容

2024年2月に発足した生成AI研究会は、ほぼ毎月オンラインで勉強会を開催しています。生成AIを活用している先駆者により、ChatGPTを使用する際のアカウント登録から実際の利用方法まで、広範かつ最新の情報共有が行われています。またGeminiやPerplexityなどChatGPT以外の生成AIについても、アカウントの登録方法、活用方法、使用時の注意点の共有なども行い、各生成AIの特徴を踏まえた活用ができるよう、積極的な情報交換を行っています。学んだことが確実に身につけることができるよう、勉強会の最中に数人程度のブレイクアウトルームを設け、習ったことをすぐに再現する等の工夫も行っています。さらに、研究会当日の発表を録画し、You Tubeで後日確認できる体制を整え、改めて確認したい点や多忙で会議に出席できなかったメンバーにも情報が周知できる体制を整えています。

○今後の抱負

急速に発展している生成AIは、日々改善がなされ、進化している状況です。生成AIを正しく有効に活用できることは、今後の診断業務には不可欠な技術・要素となってくることは確実です。生成AI研究会は、千葉県協会に登録していない診断士にも参加可能とし、年会費も徴収せず、広く参加者を募る体制としています(2025年4月から年会費5000円を検討しています)。ぜひ、皆様にも、生成AIの学びの場、情報交換の場として、積極的にご参加いただければと考えています。

生成AI研究会にご興味ある方で千葉県協会の方はkintoneの入会申込アプリ (<https://chiba-smeca.cybozu.com/k/225/>) からお手続きください。千葉県協会以外の方は入会申込みフォーム (<https://x.gd/mbw57>) からお手続きください。



QRコードから17の研究会の紹介動画・連絡先をご確認いただけます。

アンフィニ編集委員 末富 勉



本年度、研修部では診断士活動のさらなる活性化のため3つの企画を立ち上げました。

各企画で、実行を担ったのは4名のプロジェクト（以下PJ）リーダーと研修部のメンバーです。各メンバーが企画実行まで、連日議論を重ね参加者の皆さんをきめ細かくサポート。実施後には高い評価をいただくことができました。本コーナーでは当初から事業を主導した3名の理事にその狙いについて伺いました。



診断士の歩き方



企業内診断士勉強会



リアルサロン

◆佐々木 豊 近藤 利砂 竹内 敦 三理事座談会

加瀬：本年度3つの企画を立ち上げました。新企画実施には、どのような背景があったのでしょうか。

竹内：研修部内では、毎年実施している研修以外の新しい企画が必要では、という課題感がありました。千葉県中小企業診断士協会（以下県協会）は、ここ数年、会員数も増加し、各会員の皆さんの診断士活動も多様化しています。会員の皆さんに実施したアンケートも参考に、よりニーズにあった企画が必要では、という意見は日に日に大きくなっていきました。そのような中、今回PJリーダーを務めていただいた吉川さんを中心にメンバーからも新企画にチャレンジしてみたい、という声があがりました。また石井孝昌会長からも「協会の課題を捉えた企画を研修部で検討できないか」といったお話があり、新企画が現実味を帯びてきたと感じました。



竹内 敦 理事

佐々木：加えて言うと、これまで実施してきた研修は、どちらかというと、専門知識を持つ講師が参加者に向かって発信するという形式が多かったように思います。これからは会員自らが発信してお互いに学び合い、会員同士でも交流する機会を増やしていく、という方向で議論をまとめていきました。



佐々木 豊 理事

近藤：アンケートなどから見えてきた課題もあります。例えば、入会1年目は新入会員研修が

あるのですが、2年目になると次のステップが見えにくくなるようです。3年目以降は協会イベントへの参加が少なくなる傾向があり、県協会として会員の皆さんに価値を提供できているのか、という課題を感じました。

研修部の新企画ではそうした協会全体の課題感を見据えて検討を進めました。そして最終的には、診断士として稼ぐことを学ぶ、という観点で「診断士の歩き方」。企業内での診断士の活用を考える「企業内診断士勉強会」。もう一つはこうした枠組みにとらわれず、ぶっちゃけトークができる場として、「リアルサロン」という3つの研修を立ち上げることになりました。

◆各プロジェクトの実行・運営を担当したプロジェクトリーダーの皆さん



●新規事業総括リーダー：吉川 和明さん

診断士として「こんな研修があったらいいな」との想いから企画検討し、3つのPJを立案しました。一緒に学び合えて想いを共有し合える、千葉県協会ならではの研修内容となっております。皆さん、ぜひ体験してみてください。



●『診断士の歩き方』PJリーダー：橋居 修三さん

士業の中で診断士ほど、十人十色でいろいろな活動(歩き方)ができる士業はないと思います。「診断士の歩き方」では、会員の皆さんに、診断士の学び方・活動・お仕事等について、「リアルな学び」と、診断士間の『ネットワーク構築』の機会を提供しています。



●『企業内診断士勉強会』PJリーダー：江口 光司さん

企業内診断士のための勉強会を実施しました。この事業は、『中小企業診断士の能力を本業で活かす』ことを目的として企画しました。当日は運営チームの尽力もあり、企業内診断士にとって貴重な学びの場となりました。ご参加いただいた皆さんにも感謝します。



●『リアルサロン』PJリーダー：大嶋 亨一さん

実は、「こんなことしたい」や「これを相談したい」ということはありませんか？「一人じゃできないけど、他の人と一緒ならやってみたい！」の実現を目指しています。素敵な診断士ライフを送るために一緒に楽しく自己研鑽し、より「BIG」になりましょう！



竹内 近藤 佐々木 三理事による座談会模様

加瀬：企画を立ち上げる上で苦労したことや大変だったことはありましたか？

近藤：参加者の募集については、どの企画でも課題となりました。新入会員研修や、協会のイベントで告知をしましたが、どのくらい参加いただけるのかは最後まで不安でした。結果、ほぼ予定通りに開催でき、参加いただいた皆さんには感謝しています。

竹内：各企画の準備の進捗にバラつきがでていたことはすこし気になっていました。ただ実行面では、4名のプロジェクトリーダーにお任せしていて、メンバーと一緒に休日も議論を重ねている、といったお話をきいて、皆さんでやり切っていただけるものだと思えました。

佐々木：今回は新しい企画ですので、まずはやってみよう、そういうスタンスで進めてきました。走りながら考えてうまくいかないところがあれば、見直せばいい、そんな感覚です。結果的にはたとえば、『診断士のお仕事図鑑』を作成するなど素晴らしいアウトプットが出せたのではないのでしょうか。

加瀬：3つの企画の実施後の感想を教えてください。

佐々木：私は『診断士の歩き方』を担当しました。この企画は、みんなで「診断士のお仕事図鑑」を作りましょう、という内容です。終わってみると働き方の方向性がよくわかるすばらしい『図鑑』ができたと思っています。

竹内：私は『企業内診断士勉強会』を担当しました。この企画は、企業内診断士の皆さんが、診断士の活動をどのように本業に活かせるか、キャリア形成にどう活かすか、といったテーマです。当初は、『企業内』に絞った議論を考えていましたが、活発な議論の中で独立の可否や、副業、実務ポイントをどう獲得するかといったより幅広い内容が話し合われたと思います。

近藤：『リアルサロン』を担当しました。この企画は他の企画と少し違い、自由なテーマで情報交換するコミュニケーションの場作りが目的です。企画も実行もプロジェクトリーダーに任せきりでしたが、今回の「自身のキャッチコピーを作ってみる」という企画は、アンケート結果も良好で、前向きなコメントをいただくことができました。



近藤 利砂 理事

加瀬：会員の皆さんにメッセージをお願いします。

近藤：3つとも新しい企画でしたので参加をためられた方もいらっしゃるかと思います。その中でも『リアルサロン』は、「ぶっちゃけトークができる場所」がコンセプトで、気軽に参加いただけます。今後も研修部の活動に関心を持っていただければと思います。

竹内：今回は実行面で各PJリーダーに頑張ってもらっていただき企画を実現することができました。

特に3名のリーダーの意見を聞きながら当初から全体をまとめていただいた吉川リーダーには大変感謝しています。会員の皆さんには、これからも研修部活動に期待していただければと思います。

佐々木：本年度は「まずはやってみる」というスタンスで進めてきました。これから改善点を整理して、会員の皆さんがより参加しやすく、ニーズに応じていけるように努力していきたいと思っています。

◆各企画に参加された会員の皆さん



●『診断士の歩き方』に参加：木下 英彦さん

「診断士のお仕事図鑑」では51もの業務が整理され、そのために必要なスキルや対応する勉強会までまとめられています。参加することで、企業内診断士として自社以外の事業者様に対しても貢献意欲がさらに強くなりました。



●『企業内診断士勉強会』に参加：渡辺 真也さん

自分の強みと診断士資格を組み合わせ、勤務先での業務にも役立てるために勉強会に参加しました。事務局・講師の方々や参加者からもアドバイスをいただき、自分で気づかなかった強みを発見でき、とても有意義な機会でした。



●『リアルサロン』に参加：小野 智睦さん

他人に自分はどのように見えているのか？自分の強みは何だろう？といったことを人に聞く機会は少ないですね。短い時間でしたが、少しは自分を理解できた気がしました。自身の診断士の歩き方を考えるヒントになることを期待しています。

◆企画全体を通して。～総括コメント～ 茂木 俊裕 研修部長



2024年度、研修部では新たに3つの研修を実施いたしました。

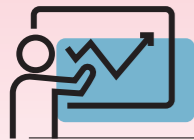
従来の研修にとどまらず、会員のニーズや時代の変化等を踏まえ、研修部としての新たな展開として企画立案いたしました。

それぞれの研修において、参加された会員により、さらに深化し発展を感じました。このように実現できたことは感慨深く、関わったすべての皆様に感謝申し上げます。

今後も質の高い「学びの場」の提供を目指し、研修部一同、尽力してまいります。



アンフィニ編集委員 加瀬 雄大



明日のスターを目指せ！ 2024セミナー講師発掘プレゼン大会

< 2024 年度プレゼン大会入賞者 >

優勝：大野 宏さん

2位：中村 雄一さん

3位：安田 一優さん



はじめに

当協会が積極的に行っている人材発掘の一環の一つに、自身のセミナーコンテンツを発表する「セミナー講師発掘プレゼン大会」があります。毎年多くの方に登壇いただいております。2024年度も17名の方に登壇いただきました。自身以外のコンテンツも視聴できるので、非常に活発で学びの多い機会となります。本年度の大会参加者から投票数が多かった上位3名の診断士をご紹介します。

1位. 大野 宏さん

優勝を飾られたのは、「新製品開発への第一歩～やらなきゃ損！今日から始める産学連携！～」を発表された大野宏さんです。



<大野宏さんのプロフィール>

研究開発経験が豊富で、0→1創出が強み。産学連携による新製品開発を目指し、企業の成長を伴走支援します。

新商品開発を産学連携で実施することは、ハードルが高いのではないかと感じる方も多いのではないのでしょうか。大野さんのコンテンツは、そんな気持

ちを取り払い産学連携で新商品開発をやってみようと思える内容でした。

<セミナー概要>

- タイトル**：新製品開発への第一歩～やらなきゃ損！今日から始める産学連携！～
- ねらい**：産学連携が新製品開発・技術開発・課題解決の一つの有効な手段であることを理解してもらう。
- ターゲット**：新商品を作りたいが着手できていない・新技術開発・課題解決をしたいが自社ではできない・産学連携になじみのない中小企業。そんな中小企業を支援する商工会 & 商工会議所/金融機関

発表時に、力強くお話される姿が印象的でした。これからの意気込みを、大野さんから一言いただきましたのでご紹介いたします。

<大野宏さんからの一言>

診断士としての差別化のため自分を見つめ直し、研究技術開発経験と大学との共同研究の経験を強みと捉え、【産学連携の活用】に的を絞り、わかりやすい資料と説明を追求。今回の挑戦を機に更なる可能性を拡大したい！

2位. 中村 雄一さん

続く2位を受賞したのは、「企業を元気にする！中高年社員を輝かせるマネジメント研修」を発表された中村雄一さんです。



<中村雄一さんのプロフィール>

明治大学卒業。医薬品卸売会社で営業、支店責任者を経て、現在は管理部門で戦略立案や人材育成・支援に従事。

マネジメント研修というと、若手社員の育成をテーマにしたコンテンツが多いですが、中村さんのコンテンツは、中高年社員に着目しているところがポイントです。中高年社員のモチベーションアップにつながる内容でした。

<セミナー概要>

- タイトル**：企業を元気にする！中高年社員を輝かせるマネジメント研修
- ねらい**：中高年社員のモチベーションを高める重要性を認識してもらう
- ターゲット**：事業者、事業者の管理職、経営者団体、支援機関、金融機関

優しい雰囲気でのコンテンツを発表する姿が印象的でした。中村さんからも今大会に参加した感想を一言いただいております。

<中村雄一さんからの一言>

自分にできることをお伝えするために、分かりやすいストーリー作りにこだわりました。セミナー・研修講師養成講座の受講から、プレゼン大会に向けた準備、発表当日の緊張感まで、非常に良い経験をさせていただきました。

3位. 安田 一優さん

最後の入賞者・3位を獲得されたのは、「年間1万円以内で新規顧客を獲得する！中小企業のコンテンツマーケティングの進め方」を発表された安田一優さんです。



<安田一優さんのプロフィール>

IT業界でBtoBマーケティングを営む企業内診断士。副業でマイクロソフトACCESSのデータベースを開発

1万円以内で新規顧客を獲得するというタイトルがとても印象的でした。コンテンツマーケティングを実施することのハードルを下げ、明日からでもすぐに実践できると思える内容でした。

<セミナー概要>

- タイトル**：年間1万円以内で新規顧客を獲得する！中小企業のコンテンツマーケティングの進め方
- ねらい**：コンテンツマーケティングの第一歩としてオウンドメディア（自社ブログ）の運営に着手していただくことを通して、最終的に新規顧客を獲得する仕組みを作っていただくこと
- ターゲット**：商工会や商工会議所など、中小企業の経営改善を支援している団体向け

難しい言葉をつかわず、わかりやすく説明いただいている姿が印象的でした。安田さんのコメントも紹介いたします。

<安田一優さんからの一言>

プレゼン大会では多くの参加者の中で入賞でき光栄です。皆さんの発表を聞くことで同じ中小企業診断士でも一人一人がこんなにも多様な得意分野をお持ちであることがわかり、刺激を受けるとともに勉強になりました。

当日登壇された皆様より、コンテンツの内容や、参加した感想など様々なコメントをいただいております。どのコンテンツ内容も素晴らしい発表でした。当協会のイベントなどでお会いした際には、ぜひ情報交換しましょう！

●高橋 朋智 さん

【中小建設業向け収益力向上セミナー】

<ひと言>

建設業専門で経営支援を行っていません。ポストコロナに入り一層複雑化する建設業者の支援をして参ります。



●北原 彰 さん

【経営力強化セミナー：成功企業の物語～事例から読み解く企業・事業戦略と魅力】

<ひと言>

オーディションを通じ沢山のご意見をいただきました。自身を振り返る機会となり、今後の参考になりました。





明日のスターを目指せ！2024セミナー講師発掘プレゼン大会

●富安 裕昭 さん

【SNS 時間をムダにしない運用法】

<ひと言>

プレゼンをきっかけに、プレゼン後も整理してブラッシュアップすることができ、ためになりました。



●窪田 恭之 さん

【これだけは押さえておこう！中小企業の5つの人材戦略セミナー～従業員の定着とモチベーション向上のために～】

<ひと言>

2回目の挑戦だったが、今年も3位入賞の壁は厚かった。トークも大切、しかしやはりコンテンツが最重要と学ぶ。



●山本 義夫 さん

【自ら考え行動する～自分の「強み」を知り、分析し次の取り組みを考えるワークショップ】

<ひと言>

経営者（従業員）自らが、自社の「強み」を考えることが、次の取組に結びつく。ワークショップ開催予定。



●木田 仁志 さん

【人材不足解消セミナー！】

<ひと言>

初参加で緊張の連続でしたが貴重な経験でした。テーマ設定や話し方など、とても勉強になりました。



●高橋 大樹 さん

【農業者の経営相談に上手に対応するには～業界事情を学んで～】

<ひと言>

自分のテーマや構成を考えること、他の登壇者の方のプレゼンを聴くことが大変勉強になりました。



●加藤 清人 さん

【物価高・人件費上昇時の利益向上策】

<ひと言>

4年前に仕込んだネタを、当時と異なる相手に伝えるため試行錯誤、楽しかったです。良い経験になりました。



●岩城 廣明 さん

【中小企業(店舗ビジネス向け)のためのインスタグラム運用セミナー】

<ひと言>

大会を通じて自分の強みを見直すきっかけと、そしてそれを先生方に伝えられる機会をいただけ感謝しております。



●佐藤 賢 さん

【インバウンド宿泊客集客に踏み出すためのセミナー～パリオリンピックトルコ人銀メダリスト「無課金おじさん」に続こう～】

<ひと言>

10年以上の海外駐在、語学(英語・韓国語・中国語)経験を活用、インバウンド集客を支援・研究しています。



●加瀬 雄大 さん

【だれでもできる！「顧客の共感を呼ぶストーリー」の創り方～ストーリーマーケティングのすすめ～】

<ひと言>

本大会では、講師として貴重な模擬体験を得ることができました。運営の皆様までありがとうございました。



●末富 勉 さん

【なんちゃって シックスシグマのすすめ】

<ひと言>

日米の大企業が業績向上に活用中のシックスシグマ。中心的で高効果の手法のみ中小企業向けにアレンジ！



●新實 朋子 さん

【断れない営業術！顧客の心を掴む提案の作り方】

<ひと言>

皆さんの強みやご経歴を知る非常に良い機会でした。ここで得られた繋がりがその後も活きています！



●平山 邦子 さん

【そのままいいの!? ホームページ～営業マンとしてのホームページ活用術～】

<ひと言>

貴重な体験をすることができました。たくさんの方との出会いが貴重な財産になりました。



当日参加いただきました、当協会の営業部隊である地域振興部の川村部長より、本大会へのコメントを頂戴しました。

9月14日に千葉市生涯学習センター地下円形ホールで、17名の方が参加された講師発掘オーディション大会が開催されました。



年々登壇いただく方のコンテンツの完成度や話し方が向上しており、大変驚いています。

登壇された方の傾向としては、経営管理に関わるテーマと登壇いただいた方の経験に基づく、実践的な内容に二分化されていると感じています。どちらの内容も大いに評価を得る事はできると思いますが、上位に入賞した方が共通している点としては、コンテンツ全体の構成や訴求したい点が明確かつ内容がわかり易く、テンポの良い展開となっている事が挙げられると思います。

セミナー講師にご興味がある方は、来年も講師育成講座から講師発掘オーディションにかかる一連の流れを企画開催いたしますので是非ご参加をいただければと思います。

また、大会の準備から当日の運営まで担当いただきました、当協会の地域振興部の庄子理事からもコメントをいただいています。

まずはご登壇およびご参加いただきました皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。協会イベントの一つである「セミナー講師発掘プレゼン大会」は、会員の皆様が持つ「武器」をアピールし合う場であり、毎年、様々なコンテンツに学びや刺激を得ています。



その素晴らしい発表を会場に参加できる人だけでなく、より多くの方々に届けたいという考えから、2024年度はハイブリッド開催とした結果、20名の方にオンラインでご参加いただきました。ただ、録画したものの活用しきれていない点は反省しています。来年は更に登壇者・参加者を増やして活発なイベントにするとともに、一時的なものに終わらず、ご登壇いただいた方のステップアップや協会の魅力アッ

プなど、その後も良い影響のある場にしていきたいと考えております。来年もどうぞよろしく願いいたします。



「セミナー講師発掘プレゼン大会」で発表することにより、入賞者は毎年11月に開催される「診断士の日」で登壇したり、外部機関も招いた当協会主催の勉強会で発表したりと、アピールの機会につながっています。2025年度の「セミナー講師発掘プレゼン大会」も、自慢のコンテンツや講師へ挑戦される方のご応募をお待ちしております！当日の様子が気になる方は、ダイジェスト版をYouTubeで公開しています。ぜひご覧ください。



まずはここから！

【セミナー・研修講師育成講座】

「セミナー・研修講師をやりたいけど、どうしたらいいのかわからない」という方は、毎年開催する「セミナー・研修講師育成講座」にご参加ください。今回入賞した3名の方をはじめ今年の登壇者のほとんどの方が参加しています。基本のインストラクションスキルや、セミナー企画書・研修カリキュラムの作成などについて説明する講座です。講座内で、受講生が作成された独自のセミナーコンテンツも発表いただく機会もあるので、アピールの場にもご活用できます。



アンフィニ編集委員 平山 邦子

新任編集委員、新任イベントレポーターのご紹介

アンフィニ編集委員



末富 勉 (すえとみ つとむ)

- ・協会入会年/2024年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/ジャズ鑑賞・落語鑑賞

●自己紹介コメント、意気込みなど

外資系企業の日本法人での長年の勤務経験を活かし、ハイブリッドな業務改善提案のできる診断士です。アンフィニをはじめ、活動が活発な千葉県協会に入会でき、とても嬉しいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

アンフィニ編集委員



平山 邦子 (ひらやま くにこ)

- ・協会入会年/2024年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/読書

●自己紹介コメント、意気込みなど

アンフィニ編集委員として協会のイベントや取り組みなど様々な情報を皆さんに伝えることができるように頑張ります。

イベントレポーター



中村 雄一 (なかむら ゆういち)

- ・協会入会年/2024年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/スポーツ観戦・研究会への参加

●自己紹介コメント、意気込みなど

今年5月に中小企業診断士として登録し、千葉県協会に入会させていただきました。イベントレポーターとして、協会イベントの楽しさを会員の皆さまにお届けできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

イベントレポーター



山本 義夫 (やまもと よしお)

- ・協会入会年/2023年
- ・独立or企業内/独立
- ・趣味/サッカー・ゴルフ・旅行

●自己紹介コメント、意気込みなど

会社退職後、社会貢献を志し中小企業診断士を取得、昨年69才で開業、2年目になります。協会の行事イベントにも積極的に参加し、イベントレポーターにも就任しました。よろしくお願いします。

「千葉県協会の顔」を構築するホームページ編集委員のご紹介

アンフィニ編集委員



藤井 啓子 (ふじい けいこ)

- ・協会入会年/2024年
- ・独立or企業内/独立
- ・趣味/最近、筋トレを始めました

●自己紹介コメント、意気込みなど

2016年に医療・介護のコンサルとして独立開業。介護離職防止の研修も行います。2023年に中小企業診断士登録、今後は創業支援など新しいことをやってみよう。旅行と自然と温泉が大好き。大学院博士課程(経営学)に在学中。

イベントレポーター



杉谷 健太 (すぎたに けんた)

- ・協会入会年/2022年
- ・独立or企業内/独立
- ・趣味/スキー・水泳・哲学書

●自己紹介コメント、意気込みなど

診断士の資格を取ってすぐに千葉県協会に入り3年目です。今まで協会活動にあまり関わってなかったので、何か頑張りたいと思いイベントレポーターに応募しました。将来は診断士YouTuberになれるように頑張りたいです。

ホームページ編集委員 (新任)



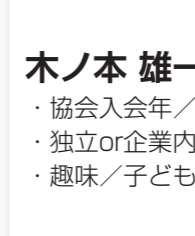
大谷 仁 (おおたに じん)

- ・協会入会年/2016年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/子育て

●自己紹介コメント、意気込みなど

本業ではとある試験事業のマーケティング、副業診断士としてWebマーケティングをしています。よりよい協会HPIにするべく頑張ります!

ホームページ編集委員



木ノ本 雄一 (きのもと ゆういち)

- ・協会入会年/2014年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/子どもの習い事(ミュージカル)の手伝い

●自己紹介コメント、意気込みなど

小売業、システム数社を渡り歩き現在は銀行で千葉県内の中小企業向けにシステムを活用した業務改善を提案しています。特にCMもやっているキントーンは色々提案をしていますので、お困り事が有ればご相談ください!

イベントレポーター



高橋 大樹 (たかはし だいじゅ)

- ・協会入会年/2022年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/映画鑑賞・食べ歩き・カメラ

●自己紹介コメント、意気込みなど

今年度からイベントレポーターとして広報部の活動に参加させていただくことになりました。これまでは静止画が趣味でしたが、動画作成のスキルも伸ばし、目を引く映像で協会活動を発信していけるよう頑張ります!

イベントレポーター



富安 裕昭 (とみやす ひろあき)

- ・協会入会年/2024年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/ローカル路線バス旅 坂東33カ所巡り

●自己紹介コメント、意気込みなど

週末キッチンカーでのにぎわいづくりを10年ほどしてきました。面白い世界があるものだな、とご縁で診断士になってみました。

横つながりが広い人は幸福度が高いそうなので、よろしくお願いします。

ホームページ編集委員



那須 康二 (なす こうじ)

- ・協会入会年/2017年
- ・独立or企業内/企業内
- ・趣味/旅行・サッカー観戦

●自己紹介コメント、意気込みなど

ホームページ編集委員の経験を活かし、企業のホームページ作成活動を行っています。ホームページ作成のお悩み事があれば気軽にご相談ください。

ホームページ編集委員



野本 俊一 (のもと しゅんいち)

- ・協会入会年/2019年
- ・独立or企業内/独立
- ・趣味/ゴルフ・NBA観戦・一日一万歩歩くこと

●自己紹介コメント、意気込みなど

千葉県中小企業診断士協会のPRのために頑張ります!



アンフィニ編集委員 喜多 康人